

心 理 学 科 彙 報

2023年度心理学科の動向

心理学部心理学科は2023年度で18年目を迎え、大学院心理学研究科心理学専攻も開設16年目となった。また、2021年4月からスタートした人工知能・認知科学専攻が3年目を迎えた。2023年度は本学における新型コロナウイルス感染拡大防止に基づく行動基準もレベル1となり、3密を回避した上でという条件つきながら以前とほとんど変わらぬ日常が戻った。一方でコロナ禍を契機として、定着した行動様式もあった。LMS (Learning Management System) を活用した授業や、多くの会議のオンライン化は継続されている。

2023年度において本学のLMSはWebClassからKnowledge Deliverへ本格的に移行された。慣れ親しんだWebClassからKnowledge Deliverへの移行は、少なからぬ認知的・時間的コストを必要とした。将来的には再度新しいLMSへの移行が計画されており、対応に迫られる予定である。

また、責任コマ数減という全学の方針に基づき、どのように実現するか、教務担当副学部長を中心に検討が進められた。教育と研究に集中できる、より魅力的な労働条件になることが期待される。

心理学科心理学専攻の特色である公認心理師対応カリキュラムは6年目となった。資格条件の取得を希望する学生へのサポート体制として、心理学検定の受験補助制度が継続して運用されている。本年度もこの対応カリキュラムは円滑には実施されたが、これまで3回生配当科目であった「心理演習」「心理実習」は配当年次が変更され、来年度からは4回生配当科目として運用される。

卒業研究に関して、コロナに関する本学の行動基準も緩和されたため、昨年度と比較して対面での面接や実験を行う卒業研究も増えた。また、これまでと同様に、クアルトリクスやグーグルフォームを活用したWebベースの研究も精力的に行われた。本年度の卒業論文提出者の数は昨年より増加し、33本であった。

心理学専攻では例年と同様にゼミ選択の説明が12月に開かれた。昨年度は全教員のゼミ紹介動画を

LMSにアップすることで行われたが、本年度では4年ぶりに対面形式でゼミ選択のオリエンテーションが実施された。4つの領域から計16のゼミで募集が行われた。オリエンテーションの様子は録画撮影され、LMS上で公開されるなど柔軟な運用がなされた。

人工知能・認知科学専攻では初めてのゼミ配属が行われ、4つの領域でより専門的な教育が開始された。当該学年の2年後の院進学に対応するため、大学院における人工知能・認知科学コースの設置準備が精力的に進められた。

本年度も外部から講師をお招きして学科講演会を実施した。詳細は学科講演会の報告内容を参照していただきたい。対面での開催も実施され、教員のみならず、学生たちにとっても有意義な講演であった。

2022年秋からサバティカルでアメリカに留学されていた馬場天信教授が2023年秋にご帰国された。この経験を活かし、より一層のご活躍が期待される。

最後に、前学部長である川口潤教授、及び中鹿彰教授が本年度にて定年でのご退職となった。これまでのご貢献に心より感謝を申し上げたい。本年度より豊田弘司教授が心理学部長として全体の指揮を執られている。なお、副学部長は東正訓教授ならびに小野田、心理学研究科長は永野浩二教授、心理学研究科専攻主任は三川俊樹教授、学科長は小野田がその任に当たっている。

2023年度心理学科専任教員

教 授	井佐原 均 (認知科学)
教 授	石王 敦子 (認知心理学)
教 授	浦 光博 (社会心理学)
教 授	小野田慶一 (認知脳科学)
教 授	金政 祐司 (社会心理学)
教 授	川口 潤 (認知心理学)
教 授	庄野 修 (機械学習・深層学習)
教 授	瀧端真理子 (博物館学・資格課程)
教 授	竹下 秀子 (発達心理学)
教 授	豊田 弘司 (教育心理学)
教 授	中鹿 彰 (臨床心理学)
教 授	永野 浩二 (臨床心理学)
教 授	馬場 天信 (臨床心理学)

教 授	東 正訓 (社会心理学)
教 授	鋒山 泰弘 (教育学・資格課程)
教 授	丸野 進 (認知科学)
教 授	三川 俊樹 (カウンセリング心理学)
教 授	溝部 宏二 (臨床心理学)
准 教 授	大神田麻子 (発達心理学)
准 教 授	櫻井 鼓 (臨床心理学)
准 教 授	駿地眞由美 (臨床心理学)
准 教 授	田中 秀明 (認知神経心理学)
准 教 授	辻 潔 (臨床心理学)
准 教 授	廣瀬 智士 (認知科学)
准 教 授	本田 秀仁 (意志決定科学)
准 教 授	増井 啓太 (社会心理学)
准 教 授	益田 啓裕 (臨床心理学)
講 師	荒木 浩子 (臨床心理学)
講 師	嶋 大樹 (臨床心理学)
講 師	宮川 裕基 (社会心理学)
特任准教授	神崎 享子 (認知科学)
特任准教授	菰刈 寛仁 (認知科学)
特任助教	石田 拓也 (臨床心理学)
特任助教	大塚 結喜 (実験心理学)
特任助教	河嶋 珠実 (臨床心理学)
特任助教	白砂 大 (認知科学)
特任助教	田中 宏明 (社会心理学)
特任助教	谷 恵介 (認知科学)

心理学実験準備室

定時職員 松浦 志帆

2023年度非常勤講師

計31名 (敬称略)

1	秋 保 亮 太	
2	浅 野 龍 平	追手門学院大学
3	太 田 公 子	
4	川 合 宏 之	
5	河 崎 俊 博	京都橘大学
6	木 原 香代子	
7	熊 本 勝 重	
8	小 島 康 生	
9	鈴 木 史 子	
10	高 島 遼 一	
11	高 橋 平 明	
12	谷 口 あ や	
13	種 村 文 孝	

14	玉 水 克 明	追手門学院大学
15	永 原 直 子	
16	仁 科 国 之	
17	新 田 耕 佑	
18	林 武 文	
19	深 山 理	
20	別 役 透	
21	本 郷 節 之	
22	真 下 幸 三	
23	光 廣 可奈子	立命館大学
24	宮 本 郷 子	
25	宮 元 正 博	
26	村 上 嵩 至	立命館大学
27	森 上 幸 夫	大阪国際大学
28	芳 田 茂 樹	大手前大学
29	吉 田 卓 司	
30	吉 村 直 人	
31	我 妻 秀 範	

追手門学院大学 地域支援心理研究センター

委託社員 伊藤しずか (統括リーダー) 9/30まで
委託社員 水野 友絵 (統括リーダー) 10/1から
委託社員 郡山 智恵 (プロジェクトリーダー

本室)

委託社員 植村 響子 (サブプロジェクトリーダー
本室) 4/21まで

委託社員 辻本 理絵 (サブプロジェクトリーダー
本室) 2/13から

委託社員 兼田 由華 (本室) 3/31まで
委託社員 中野 麗子 (本室) 4/1から12/31まで
委託社員 神山なつき (本室) 6/21から10/31まで
委託社員 中村由美子 (本室) 12/1から
委託社員 加地 愛 (本室) 1/10から
委託社員 勝 裕華 (分室) 6/22まで
委託社員 石黒 幹子 (分室) 5/1から
委託社員 吉田 明子 (分室)

2023年度心理学科講演会

・2023年度第1回学科講演会

日 時：2023年10月11日 4限 (15：45～17：30)

演題名：思いやりのある人はお節いか

講 師：新谷優先生

(法政大学グローバル教養学部教授)

新谷優先生は社会心理学及び文化心理学をご専門とされており、これまで自己や対人関係に関する諸現象に対して、調査法や実験法等の幅広い社会心理学的研究手法を用いて研究をされてきた。また、国内外の研究者とのネットワークも広く、国際的に著名な研究者との共同研究も行われており、第一著者として数多くのご研究が著名な学術雑誌上に掲載されている。新谷優先生のご研究は、国内外の学会でも高く評価されており、2021年度には、日本心理学会国際賞（奨励賞）を受賞されている。さらに、国内外の学会で要職を務められており、社会心理学ならびに文化心理学に関する領域において第一線で活躍をされている。本講演会においては、「思いやり」に関する一連の研究の発表を通して、他者への援助行動に関する文化差、援助行動を促す要因としての「思いやり」、また、「思いやり」が他者への援助行動（他者へのお節介）を促す心理プロセスについてご教授頂いた。以下に講演の概要を記す。

最初に、「日本人は思いやりのある国民か」というテーマに関するご研究を発表して頂いた。妊婦への思いやりのマーク、思いやり駐車場など、思いやりが日本で重要視されているが、実際に国民として思いやりのある人々なのか。実は、援助に関する国際調査では、日本人は援助しにくいことが示されている。このような結果を踏まえると、「日本人は冷たい」あるいは「外集団に無関心」だという捉え方もあるが、新谷優先生は「日本人は不確かな状況が苦手」という新たな視点を呈示された。「見知らぬ他者を援助する状況は不確実性がつきもの」であり、日本人はその場の空気を読み取ろうとするあまりに、「親切という名のお節介をすることを恐れている」とのことである。研究1では、「日本人がアメリカ人ほど、見知らぬ他者に対して援助をしないのは、状況の不確実性により敏感だから」というリサーチクエスションに関して、日米データを用いて検討されている。電車で席を譲ることなど、日常生活で援助をためらう瞬間を題材とし、その状況の不確実性（例えば、被援助者が妊婦である可能性）を操作したシナリオ実験の結果、アメリカ人に比べて日本人のほうが見知らぬ他者を援助しにくいことが示された。さらに、このような援助の文化差は不確実性が高い状況でより顕著に見られていた。つまり、日本人は、相手が援助の必要性があるとわかったときはアメリカ人と同程度にその他者を援助するが、援助の必要性が曖昧であるときに、アメリカ人と比べて、日本人は援助の手を差し伸べにくいということである。

では、曖昧な状況における援助をどのように促進させることができるのであろうか。新谷優先生は、(1) 受け手に援助の必要性を明確にアピールさせること、(2) 援助が不確実な状況でも援助を申し出られるようにすることという2つの解決策を提示された。ただし、(1)に関しては、特に東アジア圏の人々は援助を必要としていても援助を要請しにくいという研究知見もあることから、(2)の視点の重要性をお示し頂いた。そして、援助が不確実な状況における援助に関わる要因として、思いやり目標と自己イメージ目標という2つの対人関係における目標についてご説明頂いた。思いやり目標とは、他者のウェルビーイングを高めようとする目標であり、一方、自己イメージ目標とは他者に自己の良いイメージ（印象）を与えて、その印象を維持促進しようとする目標である。

研究2ならび3として、2つの対人目標と他者への援助に関するシナリオ実験をご報告頂いた。研究2では、思いやり目標の高い人ほど援助の必要性が不確実な状況においても、他者に援助を申し出やすいこと、自己イメージ目標の高い人ほど援助の必要性が明確な時のみに援助を申し出ることが示された。さらに、研究3では、他者が援助を求めているなくても、その他者を援助するというお節介に着目された。この研究では、援助の必要性の有無と被援助者による援助希求の有無をシナリオで操作された。その結果、「思いやり目標の高い人は、相手が求めているかどうかではなく、相手のためになる時に援助をすること（お節介をしやすいこと）」が示された。一方、「自己イメージ目標の高い人は、相手のためにはならないとわかっていても、相手が援助を求めている時に、相手を援助すること」が明らかとなった。このように、新谷優先生は、人間関係における目標により援助行動が左右されることをご説明された。

さらに、研究4では、「思いやり目標をもつと、なぜ不確実な状況でも援助ができるようになるのか」というリサーチクエスションに関して、「非ゼロサム思考」という視点から検討が行われた。非ゼロサム思考とは、人々の幸せ・不幸せは互いに影響しあっており、他者との関係性において一方が幸せになれば、もう一方も幸せになれるという考え方である。この考え方に立てば、「援助は他者のためでもあり、自分のためでもある」といえ、援助は決して自己犠牲的なものではない。自分の時間を他者の援助にどの程度使うかという援助時間を測定したシナリオ実験の結果、思いやり目標の高い人ほど、非ゼロサム

思考を持ちやすいため、他者の援助に使う時間が多
いことが示された。

以上の一連の研究を通して、「アメリカ人と比べて、日本人は曖昧な状況で他者に援助の手を差し伸
べにくい、思いやり目標を持てれば、援助を自分
と他者のためと捉えられるようになり、結果として、
他者を援助しやすいこと」をご教授頂いた。そして、
お節介にはネガティブなイメージがあるかもしれない
が、お節介をすることで必要な支援が対象者に届
き、結果としてウェルビーイングにつながることを
ご説明頂いた。最後に、「他者に対して思いやりを持
つと、非ゼロサム的に物事を考えられるようになり、
人は少しお節介になれる」というテイクホームメッ
セージで、講演を結ばれていた。

(報告者：宮川 裕基)

・2023年度第2回学科講演会

日 時：2024年1月11日 3限 (13:45～15:30)

演題名：共感と協力の社会文化

ー比較認知科学の視点

講 師：山本真也先生

(京都大学 高等研究院・野生動物研究センター)

山本真也先生は比較認知科学（動物心理学／野生
動物科学／動物行動学）を専門とし、チンパンジー
やボノボ、ニホンザル等の霊長類種に加えて、イヌ
やネコ、ウマ、最近ではアジアゾウも対象に、認知
研究とフィールドワークを通して知性の進化につい
て考究してこられた。通底するテーマは「人間とは
何か」を理解することである。人間性の進化のこれ
までだけでなく、これからにも目を向け、とくに社
会の中で発揮される社会的知性に研究関心を寄せて
おられる。共感、他者理解、協力、文化、集団社会
がキーワードとなる研究は、手法のユニークさも
含め、国内外で高く評価されており、日本霊長類
学会高島賞（2011年）、日本心理学会国際賞奨励賞
（2015年）、神戸大学優秀若手研究賞（学長賞、2016
年）、科学技術分野の文部科学大臣表彰 若手科学者
賞（2019年）等の受賞がある。

本講演では、まず、学部学生バックパッカー時代に
触れたチベット、イエメン市民の優しさが語られ、
他方、同地域に絶え間なく発生する紛争の厳しさが
示唆するヒト社会の協力と殺戮の2面性が指摘され
た。ヒトがなぜ、そのようであるのか、ヒトの本質
をより適切に理解するために、山本先生は比較認知
科学を志向し、1) ヒト以外の動物たちが世界をどの
ように見て、感じ、考えているのかを理解する、2)

動物たちをとおして、「ヒトは何か」を理解する、さ
らに、3) ヒトと動物のよりよい共生社会を実現する、
ことをめざしてこられた。

ヒトのみを対象としているだけではヒト的な知性
の進化の本質に迫り得ない。従来、進化の隣人た
る近縁の霊長類種との比較研究が重視されてきたが、
近年は、系統は遠くとも、ヒト社会の隣人たる伴侶
動物も対象とした多彩な研究展開がある。

一例として、山本先生らは、野ネコと飼いネコの
顔形態に着目した。鼻面の短いほうが一般的には
「かわいらしさ」が増す。数千個体を測定した結果、
ヤマネコ・ノネコよりも飼いネコのほうの鼻面が短
いことが明らかになった。同一の個体でも飼いネコ
となることで同様の変化があるようで、山本先生ら
は、飼い猫のヒトから「なでられる」という身体接
触がホルモン分泌に影響し、かわいらしさアップの
顔形態変化を導くポジティブループが築かれる、ひ
いてはヒトとの絆の強化に関わると仮説している。

顔形態に係る基礎研究は、年間2万個体に迫るネ
コの殺処分抑制に貢献するかもしれない。山本先
生はコロナ禍以降、伴侶動物としての飼育が増加し
ていることに鑑み、ヒトとネコの関係性を適切に構
築する工夫の科学的根拠を提示していく必要を指摘
された。同様の観点がウマにもあてはまる。我が国
では競馬人気の陰で、競走馬の引退後の9割が殺処
分になるという。競走馬の引退後の処遇の改善、ヒ
トとの関係性の再構築に向けて、山本先生らはJRA
と連携し、絆形成に関わるホルモンであるオキシト
シンに着目した研究にもとりくんでいる。

ヒトとの絆形成という点においては、イヌを対象
とした研究からも重要な知見が得られている。即ち、
イヌは祖先種であるオオカミやヒトに最も近縁のチ
ンパンジーよりも、ヒトの指さしを理解する能力が
高い。本研究の著者らは、どの動物種よりも身近に、
広範にヒトの生活に寄り添ってきたことで、認知や
心理にヒトと共通の特徴が備わったのではないかと、
ヒトに家畜化したイヌの認知を知ることがヒトらし
さの理解に繋がる可能性あるのではないかと、自己家
畜化の種ともいえるヒトの知性の進化は自己家畜化
の副産物ではないかと、等を議論している。

そもそも、チンパンジーと対比するとボノボは自
己家畜化した、即ち、自身の攻撃性を抑える方向に
進化した種だとの指摘もある。他方、3者の行動を
ヒトに顕著な諸行動で比較したとき、事態は単純で
はない。協力的狩猟はチンパンジーにのみ、外集団
個体との食物分配はボノボにのみ見られる等、チン

パンジーとボノボのいずれがヒトにより類似しているのかについて総合的な判断はできにくい。

ヒトの協力行動の進化を探るため、山本先生はチンパンジーを対象とした実験研究を実施し、「コインを入れてリングを買う」実験で、1) 2者間の利他的協力関係や互恵的協力関係が成立しにくいことを明らかにした。他方、「相手が欲する必要な道具を相手に渡す」実験では、2) 相手の要求に応じて、自身の利益にならない状況でも手助けするが、相手が困っている状況を見ても、自発的に手助けすることはない、「相手が欲する必要な道具を選んで相手に渡す」実験では、3) 相手の要求に応じて、相手が何を必要としているか理解した上で手助けするが、理解していても自発的には助けないことを明らかにした。一連の研究からは、ヒトとチンパンジーには、認知の違いというよりも、自発性に違いがあることが示唆された。

山本先生は生息地でのボノボ研究にもとりくみ、食物分配の特徴として、1) 日常的な果実の分配、2) 豊富にある果実も分配、2) メスを中心とした寛容な分配、3) 互恵的な関係は見られない、4) 他群の個体にも分配、を指摘した。食べ物目的だけではない、相互に与える一与えられる、相手との関係構築のための分配であること、即ち「おすそわけ」の起源であるとの理解も提示している。

チンパンジーとボノボを対象とした上記研究を踏まえて、600万年前の3者の共通祖先による「要求に応じた利他行動」を経て、ヒトが独自に進化させてきた「自発的利他行動（おせっかい）」が利他・互恵性を基盤とするヒトの協力社会の発展をもたらした、相手の心を付度しておせっかいをするのがヒトの大きな特徴である、と山本先生は指摘された。さらに、おせっかいを生み出す要因として、①共感、とくに快感情の伝染と、②評判を介する間接互惠社会、さらには、③家族を基盤とした重層社会、が考えられるとのことである。③に関わって、チンパンジーやボノボにも見られない重層社会を野生ウマが築いていることを明らかにした山本先生らの研究が紹介された。ポルトガルのアルガ山の子の30分ごとの全集団・全個体の配置をドローンで記録し、社会ネットワーク分析を実施した雄大かつ斬新な研究である。重層社会はシマウマやゾウ、シャチにも見られるという。

講演の最後に、ヒト以外の社会性動物とヒトの集団性の異同についての言及があった。ヒトも含め、社会性動物は集団から物理的に離れると不安になり、

「孤独」を感じる。他方、他の種と異なり、ヒトは一人では生存できないために、目的の共有、共感性、協力維持のための間接互惠性、評判システムが発展させた、同時に、評判社会ゆえの生きづらさやプライバシーへの顧慮も発生するようになったところに、心理的に他者から隔離される「ヒト特有の孤独」が感知されるのかもしれないとの考えである。ヒト以外の種の「孤独」の質にいかなる違いがあるか、ヒト以外の多様な種の多彩な心を多角的に比較することで、ヒトの心の機微の進化にも迫ることができるだろう。

（報告者：竹下 秀子）

茨木市×追手門学院大学連携講座 追手門学院大学地域支援心理研究センター講演会（第16回）は、2020年度・2021年度・2022年度はCOVID-19の蔓延により中止となったが、2023年度も再開の目途が立たず、茨木市との連携を一旦中断し、独自に講演会を2024年度から再開する準備を行った。

心理学専任教員の研究活動

井佐原均教授

1) 研究活動

「人間らしさの探求と創成」を目指し、自然言語処理技術をはじめとする人工知能技術の研究開発を行った。具体的には対話ロボットの開発、観光情報提供支援の研究、医療情報提供支援の研究、外国語学習システムの開発を行った。

4月から6月にかけて、イタリア人研究者を招聘した。12月にブラバ大学（タイ）から学生9名が本学に来学した。2月に本学から3年生12名がブラバ大学を訪問した。

2) 研究助成

- ・追手門学院大学プロジェクト型共同研究奨励費制度（タイプB）「人間らしさの探求と創成」研究分担者
- ・科研費基盤（B）「学習者の発話を適切に把握する新しい音声認知手法の開発とその英語教育での実証」研究代表者
- ・科研費基盤（B）「曖昧検索技術を用いたユーザフレンドリーな観光情報提供に関する実証研究」研究分担者
- ・科研費挑戦的研究（萌芽）「通訳技術学習者コーパスの構築と学習支援システムの要素技術の探索」研究分担者

- ・豊橋技術科学大学との共同研究「スマートホスピタル共同研究講座における音声入力によるAI自動問診・カルテ作成支援システムに関する研究」研究分担者

3) 社会活動

- ・(特非)言語資源協会理事、(特非)言語グリッドアソシエーション理事、(一社)通訳品質評議会理事、産業日本語研究会世話人会代表幹事、(一社)AIデータ活用コンソーシアム理事・副会長、知的財産高等裁判所専門委員、ISO/TC37 国内委員会委員長
- ・芦屋市公民館、秋の公民館講座「世界はニュースだけではわからない」講師。「生成AIとは何か、何ができるか—その仕組みと限界—」、2023年12月

4) 研究発表・講演

- ・機械翻訳とデータサイエンス、井佐原均、ESP工学英语研究の展開 一理論・実践・応用一、石川有香(編)、金星堂、2023年3月
- ・様々な分野で活用できる人工知能型検索技術のビジネスでの活用、井佐原均、Meet Up Chubu、2022年7月
- ・英語らしさと正確さを考慮した英語発話のレベル判定の試み、分野をまたぐ研究開発、井佐原均、Japio YEAR BOOK 2023、2023年9月
- ・NLP Applications for smart hospitals, tourism and language learning、神崎享子・井佐原均、21st China-Japan Natural Language Joint Research Promotion Conference (CJNLP2023)、2023年11月
- ・情報処理技術を用いたユーザフレンドリーな観光情報提供の試み、山本英子・清田陽司・皆川優喜・井佐原均、日本観光研究学会全国大会、2023年12月
- ・言語と国際標準、井佐原均・神崎享子、言語政策研究への案内、村岡英裕・上村圭介(編)、くろしお出版、2024年

5) 所属学会

- ・言語処理学会、情報処理学会、人工知能学会、電子情報通信学会、日本認知科学会

石王敦子教授

最近の研究課題

- ・ワーキングメモリ容量と抑制の関連について
- ・バイリンガルの言語処理について

所属学会

日本心理学会、日本教育心理学会、日本発達心理学会、日本基礎心理学会、日本認知心理学会、関

西心理学会

資格

学校心理士スーパーバイザー、臨床発達心理士スーパーバイザー

浦 光博教授

研究活動

社会的排除の生成・維持メカニズムの検討を進めるとともに、社会的孤立・孤独の予防に関する研究開発に関して、JST-RISTEXの共創的研究開発プロジェクトの総括として、令和3年度と4年度に採択された12件のプロジェクトの伴走支援を行い、令和5年度の公募に応募された提案の審査を行った。

研究助成

- ・科学研究費補助金基盤研究(B)(代表)
社会的排除の生成・維持メカニズムの解明と抑制要因の探求
- ・科学研究費補助金基盤研究(B)(分担)
「感じる心」の知覚と道徳的判断：哲学との連携による統合的理解の構築

社会活動

国立研究開発法人科学技術振興機構・社会技術研究開発センター(JST-RISTEX)戦略的創造研究推進事業(社会技術開発)SDGsの達成に向けた共創的研究開発プログラム(社会的孤立・孤独の予防と多様な社会的ネットワークの構築)総括

基調講演

浦 光博(2023). 孤立の何が問題なのか2. JST-RISTEX戦略的創造研究推進事業(社会技術開発)SDGsの達成に向けた共創的研究開発プログラム(社会的孤立・孤独の予防と多様な社会的ネットワークの構築)令和5年度公募に向けたワークショップ基調講演.

所属学会

日本社会心理学会、日本グループ・ダイナミックス学会、日本心理学会、日本教育心理学会、産業・組織心理学会

学会活動

日本社会心理学会理事

小野田慶一教授

1) 研究活動

- ・統合情報理論による脳活動解析
- ・MRIを用いた精神・神経疾患の発症予測

2) 研究助成

- ・科研費基盤 (C) (代表)「統合情報理論にもとづく意識の創発メカニズムの検証」
- ・科研費基盤 (B) (分担)「中高年のこころの習慣と脳のコホート研究－精神的健康の予測と改善を目指して」
- ・科研費基盤 (C) (分担)「優れたクロズドスキルパフォーマンスをもたらす脳活動の同定」

3) 論文

Tokuhiro T, Onoda K, Takamura M, Yamaguchi S, & Akama H. (2023). Deep Learning Modeling for Prediction of Cognitive Task Related Features from Resting-state fMRI Data. *Qeios*. doi: 10.32388/GDWCBK.

Iwasa K, Onoda K, Takamura M, Takayoshi H, Mitaki S, Yamaguchi S, Nagai A. (2023). Development of a stroke risk score with MRI asymptomatic brain lesions attributes to evaluate prognostic vascular events. *Journal of the Neurological Sciences*, 448, 120642, doi: 10.1016/j.jns.2023.120642.

Onoda K, & Akama H. (2023). Complex of global functional network as the core of consciousness. *Neurosci Res*. 190, 67-77, doi: 10.1016/j.neures.2022.12.007.

Abe S, Onoda K, Takamura M, Nitta E, Nagai A, & Yamaguchi S. (2023). Altered Feedback-Related Negativity in Mild Cognitive Impairment. *Brain Sciences*. 13 (2), 203. doi: 10.3390/brainsci13020203.

4) 学会発表・講演

- 小野田慶一 (2023). 統合情報理論にもとづく意識の神経基盤の探索－双方向結合コアを用いた検証－ 第41回日本生理心理学会大会, 5月20日, 東京.
- 小野田慶一 (2023). 脳ネットワーク解析事始め 第7回日本脳外科認知症学会学術集会, 11月5日, 沖縄

5) 所属学会

日本心理学会, 日本生理心理学会, 日本臨床神経生理学会, 日本神経科学会

6) 学会役員

日本心理学会心理学ワールド編集委員, 日本生理心理学会監事・編集委員

金政祐司教授

1) 研究活動

社会的孤立・孤独と親密な関係内の暴力との連関性の検討：個人特性と属性を踏まえて
スピードデーティングを用いた対人魅力の規定因に関する研究

2) 研究助成

学術研究助成基金助成金 基盤研究 (C)
課題番号23K02843 (研究代表者)

2023年4月～2026年3月

学術研究助成基金助成金 基盤研究 (C)
課題番号21K02973 (研究分担者)

親密関係の開始から深化にいたる継続基盤の転換プロセス：幻想主義から現実主義へ

2021年4月～2025年3月

3) 社会活動

講演会等

大阪府警主催「防犯対策高度化協働研究会」の有識者委員 2018年2月～現在に至る

4) 著書論文

著書

金政祐司 (2023). 第7章 対人関係(家族) 要説
パーソナリティ心理学：性格理解への道 心理学ビジュアル百科 社会心理学編 鈴木公啓 (編著) p87-98. ナカニシヤ出版.

論文

Miyagawa, Y., Kanemasa, Y., Taniguchi, J. (2023). A compassionate and worthy self: latent profiles of self-compassion and self-esteem in relation to intrapersonal and interpersonal functioning. *Current Psychology*. <https://doi.org/10.1007/s12144-023-05428-w>

Kito, M., Souma, T., Nishimura, T., Yamada, J., Kanemasa, Y., Taniguchi, J., & Kawamoto, T. (2023). Do physical attractiveness and personality traits predict romantic partner evaluations? A speed-dating study in Japan. *Japanese Psychological Research*. <https://doi.org/10.1111/jpr.12489>

古村健太郎・金政祐司・浅野良輔 (2023). COVID-19の流行がもたらす夫婦の相互依存性の変化. *実験社会心理学研究*, 62 (2), 223-233. <https://doi.org/10.2130/jjesp.si5-5>

Kanemasa, Y., Asano, R., Komura, K., & Miyagawa, Y. (2023). The longitudinal associations between personality traits and psychological intimate partner violence. *Journal of Marriage and Family*, 85 (1),

55-71. <https://doi.org/10.1111/jomf.12869>

Kanemasa, Y., Miyagawa, Y., & Arai, T. (2024). Attachment anxiety and the Dark Triad increase stalking after breakups of romantic relationships through psychological maltreatment of romantic partners and reactions to breakups. Aggressive Behavior. Advance online publication. <https://doi.org/10.1002/ab.22133>

学会発表

宮川裕基・金政祐司・荒井崇史 (2023). セルフ・コンパッションと自尊心の潜在プロフィール：ネガティブな出来事への反応との関連から 日本心理学会第87回大会, 1C-014-PC. 【神戸国際会議場・神戸国際展示場 対面&Web開催】

金政祐司・荒井崇史・宮川裕基 (2023). パーソナリティ特性ならびにパートナーへの心理的な暴力が関係破綻後の反応やストーキング加害を増大させるプロセスについての検討 日本心理学会第87回大会, 1C-020-PC. 【神戸国際会議場・神戸国際展示場 対面&Web開催】

謝新宇・相馬敏彦・古村健太郎・金政祐司 (2023). 親密な関係における感情の相互依存は愛着傾向に調整される？：Dynamic APIMモデルを用いる探索的な検討 日本心理学会第87回大会, 2C-009-PC. 【神戸国際会議場・神戸国際展示場 対面&Web開催】

浅野良輔・金政祐司・古村健太郎・伊藤健一 (2023). あなたが幸せなら私も幸せ—北米人夫婦の縦断ペアデータによる検討— 日本社会心理学会第64回大会, O0804. 【上智大学 対面&Web開催】

謝新宇・相馬敏彦・古村健太郎・金政祐司 (2023). 親密な関係における相互作用と感情に対する愛着傾向の調整効果：Dynamic APIM モデルを用いて 日本グループ・ダイナミックス学会第69回大会 P1-17. 【高知工科大学 対面開催】

6) 所属学会

日本社会心理学会・日本グループ・ダイナミックス学会・Asian Association of Social Psychology・日本心理学会・日本感情心理学会・日本パーソナリティ心理学会・日本教育心理学会・日本発達心理学会・Society for Personality and Social Psychology

7) 学会役員

日本心理学会専門別代議員

日本心理学会編集委員

発達心理学研究編集委員長

川口 潤教授

(1) 研究活動（海外出張などを含む）

- エピソード記憶の想起特性と機能に関する研究
- なつかしさ（ノスタルジア）の想起メカニズムと機能に関する研究
- 記憶の認知的コントロールに関する研究

(2) 研究助成（文部科学省科研費などを含む）

- 日本学術振興会科学研究費補助金 挑戦的研究（萌芽）（研究代表者）研究課題：エピソード記憶の特性と機能に関する複合的アプローチ：ノスタルジア・心理的幸福感
- 追手門学院大学研究支援制度個人研究費（研究代表者）エピソード記憶の特性と機能に関する複合的アプローチ：ノスタルジア・心理的幸福感

(3) 社会活動（講演会講師などを含む）

(4) 著書・論文

- 服部陽介・小林正法・松本昇・川口潤. (2023). マインドワンダリングに関する暗黙理論尺度日本語版の作成とその信頼性・妥当性の検討. 心理学研究, 94 (5), 423-433. <https://doi.org/10.4992/jjpsy.94.22221>
- Nakamura, H., & Kawaguchi, J. (2023). Effect of Nostalgic Memory Retrieval on Anthropomorphism. *SAGE Open*, 13 (4). <https://doi.org/10.1177/21582440231220492>

(5) 学会発表

- 本田秀仁・白砂大・川口潤・松香敏彦・植田一博. (2023). 実世界における記憶の誤り：環境の確率的性質に関する推論プロセス 日本認知心理学会第21回大会, 東京都立大学. 2023/7/2
- 長井美友貴・伊藤友一・松本昇・川口潤. (2023). 共同でのエピソード的未来思考—予備的検討— 日本認知心理学会第21回大会, 東京都立大学. 2023/7/1

(6) 所属学会

- 日本心理学会
- 日本認知心理学会
- 日本認知科学会
- 日本神経心理学会
- Psychonomic Society (U.S.A.)
- Association for Psychological Science (U.S.A.)
- American Psychological Association (U.S.A.)

(7) 学会活動（役職、委員など）

- 日本認知心理学会理事
- 日本心理学会専門別代議員

(8) 資格取得・その他

庄野 修教授

1) 研究活動

動画予測モデルの研究・時系列データからの表現学習の研究

2) 研究助成

追手門学院大学2020年度 プロジェクト型共同研究
奨励費制度（タイプB）人間らしさの探求と創成
（研究代表者）2020年7月～2023年6月

3) 社会活動

特になし

4) 著書・論文

特になし

5) 学会発表

特になし

6) 所属学会

日本神経回路学会・日本神経科学学会・IEEE

7) 学会活動（役職、委員など）

特になし

8) 資格取得・その他

特になし

竹下秀子教授

研究活動

本学着任後の教育研究活動では、時代と地域の社会文化によって変容する発達のさまざまな、進化の視点を含めつつ捉えることを目指している。とりわけ、生物進化の一局面としての個体発達の改変とこれに対応して個人と社会の育児力を高めたことが人間の発達進化を導いたという理解をベースに、「非定型」の発達に着目する。本年度も、1) 複数言語文化環境にある子どもの参加を得た研究を進め、2) 子育て環境の諸困難への支援にかかわるフィールド研究を継続した。

著書・論文

竹下秀子（2023）. 8章 コミュニケーション. 板倉昭二（編）, 比べてわかる心の発達 ―比較認知発達科学の視点. 有斐閣.

学会発表

玉水克明・竹下秀子・浦光博（2023）. 就学前幼児による援助要請の様態と援助要請回避要因 ―パス・チャレンジとインタビュー調査. 第19回日本子ども学会学術集会, 白百合女子大学（9月23日（土）、24日（日））.

講演

竹下秀子

講座名：アカデミック ベビーウェアリングカンファレンス 2023「ことばがうまれるとき」

テーマ：ホモ・サピエンスの子育ちと子育て―身体と物と環境との相互作用による発達進化

場 所：東京大学本郷キャンパス 福武ホール

実施日：2023年11月25日

竹下秀子

講座名：人間発達研究所2023年度発達保障学校発達基礎理論研究コース 公開集中講義

テーマ：コミュニケーションの初期発達―身体と環境と物との相互作用による個体発達進化

場 所：コラボ滋賀21

実施日：2024年3月24日

研究助成

日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究（C）

「公立小学校在籍の外国人児童への日本語習得と学修へのエンパワメント」（研究代表者：竹下秀子, 助成期間：2020/04～2024/03）

追手門学院大学プロジェクト型共同研究奨励費制度（タイプA）「心理支援専門職のためのリカレント教育プログラムの開発 ―地域支援発達教育心理実践の協働による相互成長」（研究代表者：竹下秀子, 助成期間：2021/07～2024/03）

学会活動（役職、委員など）

日本子ども学会（理事）、日本赤ちゃん学会（評議員）、臨床発達心理士認定運営機構資格更新委員会（委員）、日本臨床発達心理士会滋賀支部（事務局担当役員）

社会活動

京都大学野生動物研究センター熊本サンクチュアリ運営委員会（委員）、大型類人猿情報ネットワーク運営連絡会（委員）

所属学会（会員）

日本発達心理学会、日本子ども学会、日本赤ちゃん学会、日本動物心理学会、日本霊長類学会、日本乳幼児医学・心理学会、日本小児保健協会、日本臨床発達心理士会、日本重症心身障害学会

資格取得

臨床発達心理士

豊田弘司教授

最近の研究課題

情動処理が記憶に及ぼす効果

仮想場面における努力と成果の随伴性

自己概念が対人認知や適応に及ぼす効果

研究助成

令和3（2021）年度科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）基盤研究（C）（一般）、研究課題名「偶発学習に及ぼす想起されたエピソードの効果および学習者の情動処理能力の個人差」、研究代表者（令和3年度～令和6年度）。継続

論文

- ・偶発記憶におけるマズローの欲求階層構造に対応する処理の組合せと分散効果 追手門学院大学心理学部紀要（17）, 1-14.

学会発表

- ・偶発記憶に及ぼすエピソードの時間属性の効果
－目標指向性の個人差に関する検討－ 日本教育心理学会第65回総会（オンライン開催）2023年8月10日～9月10日
- ・偶発記憶における自伝的精緻化の個人差 日本心理学会第87回大会（神戸国際会議場・神戸国際展示場、ハイブリッド開催）2023年9月15日～9月17日（ポスター発表日、9月15日）
- ・意図記憶に及ぼすエピソードの時間属性の効果 関西心理学会第134回大会（立命館大学）2023年11月12日

所属学会

日本心理学会、日本教育心理学会、日本認知心理学会、日本発達心理学会、関西心理学会

学会役員

日本教育心理学会理事、関西心理学会顧問

資格

学校心理士

中鹿 彰教授

最近の研究活動

- ・自閉症スペクトラム障害（ASD）、注意欠如多動性障害（ADHD）、学習障害（LD）等発達障害への心理臨床的側面からの支援方法の検討、さらには、中枢性統合障害の理論等ASDの認知特徴についての研究。
- ・小学校や中学校における取り組みに比べ、高等学校における特別支援教育の取り組みは未だ数が少なく、発達障害児支援に遅れが生じている。地域の支援学校から発達障害児を受け入れている大阪府立共生推進高校のこれまでのあり方、今後の課題についての検討。
- ・発達障害と才能を合わせ持つ2Eの子どもへの支援方法についての研究。この2E教育は1980年代にア

メリカで始まったが、日本で知られるようになったのは最近であり、この2Eの子どもへの支援方法については発達障害支援において今後の大きな課題として、検討を加えている。

社会活動・学会活動

- ・大阪府立北摂つばさ高等学校共生推進教室 ボランティア派遣 2023年4月～

所属学会

日本心理臨床学会、日本児童青年精神医学会、日本ユング心理学会、日本発達心理学会、日本人間性心理学会

資格取得・その他

臨床心理士、臨床発達心理士

永野浩二教授

研究活動（研究テーマ）

- ・パーソンセンタード・アプローチのカウンセリング、エンカウンター・グループ、フォーカシングの実践と研究
- ・パーソンセンタード・アプローチを応用した「幸せな働き方・生き方」に関する実践と研究
- ・臨床家のPersonal Development
- ・ダイアローグ（Open Dialogue及びAnticipation Dialogue）に関する実践と研究

研究助成

- ・学術研究助成基金助成金 基盤研究（C）求職者の柔軟性を高めるプロセス重視型キャリア支援プログラムの構築 課題番号19K03361（研究分担者）2019年4月～2024年3月
- ・追手門学院大学 プロジェクト型共同研究奨励費制度 心理臨床家の全人的成長を促進するトレーニングの開発（研究代表者）2019年4月～2023年3月
- ・学術研究助成基金助成金 基盤研究（C）クライエントの体験過程レベル自動判定システム開発の臨床心理的基礎研究 課題番号22K03151（研究協力者）2022年4月～2025年3月

社会活動

- ・「ファシリテーター・トレーニング・グループ」オーガナイザー 2023年1月21日、3月18日、4月15日、5月27日、6月17日、7月15日、8月11日～13日（宿泊型）、11月25日（8月以外は全てZoom開催）
- ・「EGカフェin東京」ファシリテーター 法眼裕子・永野浩二主催 2023年2月11日（於：ライトハウス神田）
- ・研修会講師「パーソンセンタード・アプローチ

- ＜アドバンス＞」2023年3月18日～19日（於：南山学園研修センター）
- ・研修会講師「Personal Development研修会（10回連続）」永野浩二・河崎俊博主催 2023年5月18日、5月25日、6月1日、6月8日、6月15日、6月22日、6月29日、7月6日、7月13日、7月27日 於（：ローズWAM502研修室、茨木市福祉会館301研修室）
 - ・「パーソンセンタード・アプローチ・ワークショップ」ファシリテーター 2023年7月21日～23日（於：南山学園研修センター）
 - ・研修会講師「フォーカシング・ワークショップ」関西フォーカシング研究会主催 2023年8月5日～6日 於：近畿大学（5日）、Zoom（6日）
 - ・「EGカフェ@オンライン2023」ファシリテーター 大下智子・法眼裕子・永野浩二 2023年8月20日（Zoom開催）
 - ・研修会講師「パーソンセンタード・アプローチとオープンダイアログ」オープンダイアログカレッジ2023 本山智敬・永野浩二 2023年9月5日（Zoom開催）
 - ・研修会講師「幸せな生き方の創造（1）（2）」治療教育講座 2023年9月19日・26日（於：京都国際社会福祉センター）
 - ・「ベーシックエンカウンター・グループ」ファシリテーター 日本人間性心理学会第42回大会ワークショップ 2023年9月22日（於：AOSSA 6F 地域交流プラザ）
 - ・研修会講師「PICAGIP（ピカジップ）と未来語りのダイアログ～支援職を支えるスーパービジョン、多職種連携の対話の場づくり～」オープンダイアログカレッジ2023 本山智敬・永野浩二 2023年10月3日（Zoom開催）
 - ・研修会講師 第61回全国学生相談研修会プログラム「幸せな働き方・生き方の創造（セルフケア）」永野浩二・本山智敬 2023年11月18日～19日（於：新宿NSビル）
 - ・茨木市立 男女共生センター ローズWAM スーパーバイザー
 - ・茨木市立茨木小学校学校協議会委員
 - ・大阪府立春日丘高等学校 学校運営協議会委員長
- 著書・論文
- ・永野浩二（2023）パーソンセンタード・アプローチとオープンダイアログ——対話・つながり・共に生きる（本山智敬・永野浩二・村山正治編著）第5章フィンランドでのダイアログ研修

- p59-61,71-74 第9章アンティシペーション・ダイアログの実践 p109-124.：第13章 幸せな働き方・生き方の創造 p135-143 遠見書房
- ・永野浩二・河崎俊博・益田啓裕・荒木浩子・宮川裕基（2022）心理臨床家のPersonal Development からみたエンカウンター・グループとフォーカシング体験の意義 追手門学院大学地域支援心理研究センター附属 心の相談室紀要, 19, 28-42.

学会発表

- ・河崎俊博・永野浩二（2023）心理臨床家のPersonal Developmentをめぐる実践 日本人間性心理学会第42回大会プログラム・論文集, 53.（9月23日（於：福井AOSSA 6F 地域交流プラザ）
- ・福盛英明・青木 剛・森川・竹田 悦子・平野 智子・永野 浩二（2023）EXP スケールの段階に関連する音声情報の研究——文献からの検討とアクションリサーチによる仮説生成——日本人間性心理学会第42回大会プログラム・論文集, 105.（9月23日（於：福井AOSSA 6F 地域交流プラザ）ポスター発表
- ・現代の対人援助職の研修・訓練としてのPCAGIP法の意義 中田行重・村山正治・藤中隆久・南陽子・野村陽子・石田陽彦・永野浩二 日本人間性心理学会第42回大会プログラム・論文集, 45.（9月23日（於：福井AOSSA 6F 地域交流プラザ）

所属学会

日本人間性心理学会、日本心理臨床学会、日本学生相談学会、日本産業ストレス学会、WAPCEPC（パーソンセンタード&体験過程療法／カウンセリング国際学会）、日本トラウマストレス学会

資格

臨床心理士 公認心理師

馬場天信教授

1）最近の研究活動

- ・対人関係論・関係精神分析による精神分析的心理療法の実践研究（2022年9月11日～2023年9月10日までWilliam Alanson White InstituteのIPPPへの参加：NYでの1年間の海外研修）
- ・アレキシサイミアのメンタライジング能力、感情調整機能、感情処理の問題に関する基礎的研究

2）研究助成

- ・科研（基盤C）メンタライズ機能に注目したアレキシサイミアの臨床介入ツール開発 基盤研究（C）（2018年4月～2023年3月）

3) 社会活動

- ・NY便り勉強会First (KIPP定例勉強会有志企画)
IPPPの内容と学びについて (2023年2月4日Zoom)
- ・NY便り勉強会Second (KIPP定例勉強会有志企画)
対人関係論学び直し (2023年6月10日Zoom)
- ・JFPSP精神分析講座動画配信サービスAnalyst 講師 精神分析の臨床における「記録」(2023年4月9日前編29分)
- ・JFPSP精神分析講座動画配信サービスAnalyst 講師 精神分析の臨床における「記録」(2023年4月15日後編55分)
- ・JFPSP精神分析講座動画配信サービスAnalyst 講師 精神分析の臨床における「SVについて」(2023年9月3日前編50分)
- ・JFPSP精神分析講座動画配信サービスAnalyst 講師 精神分析の臨床における「SVについて」(2023年9月9日中編74分)
- ・JFPSP精神分析講座動画配信サービスAnalyst 講師 精神分析の臨床における「SVについて」(2023年9月16日後編81分)

4) 著書・論文

馬場天信 (2023). 第2章 ストレスと心身症：心身相関の基礎理解と心理学的支援 古賀恵里子・今井たよか (編) 公認心理師の基本を学ぶテキスト第16巻 健康医療心理学テキスト：ウェルビーイングの心理学的支援のために (pp.33-46) ミネルヴァ書房

馬場天信 (2023). William Alanson White InstituteのIntensive Psychoanalytic Psychotherapy Program：NYでの対人関係論に基づく精神分析的心理療法の訓練体験，精神分析的心理療法フォーラム，11, 163-170.

馬場天信 (2023). ホワイト研究所における対人関係論に基づく精神分析的心理療法の訓練と海外研修生活体験，追手門学院大学心理学部紀要，18

5) 学会発表

- ・Komaki,G.,Baba,T., Yoshida,T., Arimura,T., Moriguchi,U., Maeda,M. (2023) Development of 30th Annual Conference of the German Society for Psychosomatic Medicine and Medical Psychotherapy (DGPM) / 73rd Conference of the German College for Psychosomatic Medicine (DKPM), May 5, 2023 (於:Berlin)

6) 所属学会

日本心理臨床学会, 日本心理学会, 日本心身医学会, 日本精神分析学会, 日本ロールシャッハ学会,

日本健康心理学会, 日本パーソナリティ心理学会, 日本感情心理学会, 精神分析的心理療法学会, 等

7) 学会活動

日本心理学会専門別代議員第Ⅲ部門 (2014年～現在)

日本精神分析的心理療法フォーラム理事 (2020年12月～現在)

8) 資格

臨床心理士 (2002年4月)

公認心理師 (2019年4月)

KIPP認定精神分析的心理療法家 (2015年2月)

日本精神分析学会認定心理療法士 (2019年11月)

KIPP認定精神分析的心理療法スーパーヴァイザー (2023年8月)

Certification of Intensive Psychoanalytic Psychotherapy Program at the William Alanson White Institute (IPPP) (2023年5月)

東 正訓教授

<学会発表>

- ・東 正訓 (2023). Prototype willingness modelの速度超過運転行動への適用，日本交通心理学会第88回名古屋大会 (8月6日ポスター発表)

<著書その他>

- ・東 正訓 (2023). 交通安全キャンペーンを効果的に進めるために—理論と実践—交通安全教育, 689, 6-17. 一般財団法人日本交通安全教育普及協会
- ・東 正訓 (2023). 若年層の事故防止，安全運転管理者法定講習テキスト令和5年度，2-23. 一般社団法人奈良県安全運転管理者協会

<学会役員>

「日本交通心理学会」運営委員、「交通科学」編集委員、一般社団法人交通科学研究会理事および会長 (2023年7月就任)

<所属学会>

日本心理学会、日本社会心理学会、日本交通心理学会、日本応用心理学会、交通科学研究会

<社会活動>

公益財団法人高速度道路研究会フェロー会員、大阪府安全運転管理者講習特別講義講師、奈良県安全運転管理者講習特別講義講師

丸野 進教授

<研究活動>

アバターロボティクスによる主体感インタフェースの研究と構築実証

- (1) 主体感に必要な主要知覚情報の研究
- (2) 仮想空間における自己視の実証研究
- (3) 現実世界から仮想世界へのマッピング実証研究
- (4) 圧覚制御データグローブによるインタフェース実証研究

<研究助成>

追手門学院大学2023年度 プロジェクト型共同研究
奨励費制度（タイプB）人間らしさの探求と創成

<対外講演・学会発表・論文>

- ・菰淵 寛仁, 丸野 進, “VR ゴーグル指先位置トラッキングを利用した自己視可能な主体感インタフェースの検討～対象物サイズ推定に対する影響因子～,” 画像電子学会全国大会, P2-1, #7, 2023年
- ・林 勇樹, 菰淵 寛仁, 丸野 進, 松井 健, “仮想空間における選手アバターを利用した多目的球技場カメラの最適配置 (2) ～視線軌跡を用いたカメラ配置の定量評価～,” 映像情報メディア学会年次大会, 23C-4, 2023年
- ・菰淵 寛仁, 林 勇樹, 丸野 進, 松井 健. (2023) “仮想空間における選手アバターを利用した多目的球技場カメラの最適配置 (1) ～実在する多目的球技場の3Dシミュレーション環境構築～,” 映像情報メディア学会年次大会, 23C-3.
- ・H.Komobuchi, S.Maruno, “Stability Enhancement in VR Hand Manipulation through Dynamic Truss Structure Connections,” International Conference on Image Electronics and Visual Computing. (Accepted and will be published on March, 2024)

<所属学会>

画像電子学会, 日本機械学会

三川俊樹教授

<最近の研究課題>

- ・学校教育におけるキャリア教育の推進
- ・カウンセリングにおけるスーパービジョンとスーパービジョンメンタリングのモデル構築、スーパーバイザーとスーパービジョンメンターの養成訓練
- ・保育所の養育機能および学校のエデュケーション機能を活用した家庭支援

<研究費助成>

- ・令和2（2020）年度科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）基盤研究（C）（一般）、研究課題名「キャリアコンサルティングにおけるスーパービジョン・メンタリングのモデル構築」（課題

番号：20K03350）、研究代表者（令和2年度～令和5年度）。

<論文・著書等>

- ・三川俊樹（2023）スーパービジョンとメンタリングの構造に関する一考察（3）追手門学院大学心理学部紀要, 17, 15-30. 2023年3月
- ・四宮康亮・三川俊樹（2023）キャリアアダプタビリティの概念化と測定（2）追手門学院大学心理学論集, 31, 17-28. 2023年3月

<書評>

- ・中村美奈子（著）復職のためのセルフ・トレーニング・ワークブックーメンタル不調に陥ったときの処方箋（金剛出版, B5版150頁, 2022年12月刊）精神療法, 第49巻第4号（通巻257号）, 129-130. 金剛出版 2023年8月

<学会シンポジウム・研修会>

- ・日本キャリア・カウンセリング学会第28回大会シンポジウムⅡ「スーパービジョンの魅力と効果ーSVをもっと身近にするには？」（ハイフレックス開催）企画：濱田多美代（たみこころの相談室／日本キャリア・カウンセリング学会SV委員長）、シンポジスト：国重浩一（ナラティブ実践協働研究センター）、三川俊樹（追手門学院大学心理学部）、司会・指定討論：馬場洋介（帝京平成大学大学院臨床心理学研究科／日本キャリア・カウンセリング学会会長） 2023年11月26日
- ・日本キャリア・カウンセリング学会SV委員会「スーパービジョン入門講座」（オンライン講座）第1回「スーパービジョンをもっと身近にースーパービジョン、さあ行こう！」（2023年6月18日）、第2回「スーパービジョンでは何を取り上げ、どのように援助するのか？」（2023年9月24日）、第3回「効果的なスーパービジョンができるスーパーバイザーになるために」（2023年12月17日）

<講演・研修等>

- ・伊賀市教育委員会 令和4年度伊賀市キャリア教育研修会「キャリア・パスポートの展開に向けて」2023年1月20日（於：伊賀市教育研究センター）
- ・一般社団法人日本産業カウンセラー協会関西支部相談事業部 グループ・スーパービジョン 2023年3月5日（於：一般社団法人日本産業カウンセラー協会関西支部）
- ・摂津市教育委員会 キャリア教育に係る研修会「キャリア教育の推進に向けてーキャリア・カウンセリング&キャリア・パスポート」 2023年4月14日（於：摂津市市役所）

- ・高槻市教育センター 教育相談研修「教育相談の基礎・基本と5つのCo」 2023年5月22日（於：高槻市教育センター）
- ・東大阪市教育委員会 令和5年度東大阪市小・中・高等学校初任者研修（第5回）「適切なコミュニケーションで育む子どもとの信頼関係」 2023年5月23日（於：東大阪市立男女共同参画センターイコラーム）、2023年6月8日（於：ユトリート東大阪）
- ・独立行政法人教職員支援機構 令和5年度キャリア教育指導者養成研修（第1回）「児童生徒の発達を促す③－キャリア・カウンセリングの基盤としてのコミュニケーションスキルの向上」 2023年6月21日（於：パレプラン高志会館）
- ・高知県教育委員会 令和5年度小学校キャリア教育地区別協議会 講演「キャリア・カウンセリングを活かしたキャリア・パスポートの作成」中部地区：2023年6月23日（於：土佐市複合文化施設つな一で）、西部地区：2023年6月30日（於：中村地区建設協同組合会館）、東部地区：2023年7月14日（高知県立青少年センター）
- ・伊丹市総合教育センター スーパービジョン研修会「学校との連携」 2023年7月18日（於：伊丹市立総合教育センター）
- ・高槻市立第七中学校区研修会 講演「コミュニティ・スクールとして学校を変える、学校が変わる」 2023年7月21日（於：高槻市立三箇牧小学校）
- ・奈良市教育センター 令和5年度中堅教諭等資質向上研修「キャリア教育」（キャリア教育に関する概論と指導の在り方） 2023年7月26日（ライブ配信）
- ・茨木市立耳原小学校校内研修「支援が必要な子どもの理解と学級づくり」 2023年7月27日（於：茨木市立耳原小学校）
- ・伊丹市教育委員会 令和5年度（第1回）生徒指導対応力向上研修「生徒指導における『キャリア教育』『キャリア・カウンセリング』の活用等について」 2023年7月28日（於：伊丹市立総合教育センター）
- ・京都市教育委員会 令和5年度生き方探究（キャリア）教育実践講座（児童生徒の自己評価力を高める教員の対話的な関わりとは？）講演「キャリア・パスポートを活用したキャリア・カウンセリング」 2023年8月1日（於：京都まなびの街 生き方探究館）
- ・高石市教育委員会 高石市子ども理解のための研修会「子どもとの対話・保護者との対話～教師の対話力を高めるために」 2023年8月4日（於：高石市役所）
- ・独立行政法人教職員支援機構 令和5年度キャリア教育指導者養成研修（第2回）「児童生徒の発達を促す③－キャリア・カウンセリングの基礎としてのコミュニケーションスキルの向上」 2023年8月23日（於：パレプラン高志会館）
- ・大阪府教育庁 令和5年度家庭教育支援員（親学習リーダー・訪問型家庭教育支援員）養成講座「役割の自覚－家庭教育支援員としての役割－活動するにあたって」 2023年9月6日（於：大阪府新別館北館多目的ホール）
- ・摂津市教育委員会 キャリア教育に係る研修会「キャリア・カウンセリングを活かしたキャリア・パスポート」 2023年9月11日（於：摂津市教育センター）
- ・一般社団法人大阪市私立保育連盟 連続講座Ⅲ（子育て支援）「対人援助の技術」 2023年9月22日（於：エル・おおさか）
- ・高石市立加茂幼稚園 幼児期のキャリア教育に係る保育参観と園内研修 2023年9月29日（於：高石市立加茂幼稚園）
- ・大阪市保育士・保育所等支援センター研修会「カウンセリングマインド」 2023年10月6日（於：たかつガーデン）
- ・茨木市教育委員会 社会教育関係講座 講話「ブロック遊びと非認知能力」 2023年10月14日（於：上中条青少年センター 青少年ホール）
- ・高知県教育センター 令和5年度2年経験者研修「県立学校研修」（高等学校）「キャリア・カウンセリングを通じた生徒指導」 2023年10月23日（於：高知県教育センター）
- ・伊賀市立三訪小学校 キャリア教育研究発表会 講演「キャリア教育を各教科・領域で展開するために－キャリア・カウンセリングとキャリア・パスポートを活用して」 2023年11月2日（於：伊賀市立三訪小学校）
- ・福岡県教育センター 令和5年度県立学校等若年教員研修会2年目 講演「保護者対応について－『家庭の教育力』を支援するために」 2023年11月16日（於：福岡県教育センター）
- ・群馬県教育委員会 令和5年度キャリア教育研究大会 講演「キャリア教育の充実について－キャリア・カウンセリングによるキャリア・パスポート

- トの作成・活用」 2023年11月17日（ライブ配信）
- ・岐阜県教育委員会 令和5年度キャリア教育実践講座「キャリア発達を促すキャリア・カウンセリングの充実を！」 2023年11月20日（於：岐阜県総合教育センター）
- ・摂津市教育委員会 キャリア教育に係る研修会 2023年11月21日（於：摂津市教育センター）
- ・京都府中学校教育研究会 令和5年度第2回キャリア教育研究部会・地域部長研究会 講演「キャリア教育の充実に向けてーキャリア・カウンセリングとキャリア・パスポートの活用」 2023年12月8日（於：亀岡市交流会館）
- ・内閣官房内閣人事局 令和5年度管理監督者のためのメンタルヘルスセミナー 2023年12月22日（ライブ配信）

<表彰>

- ・茨木市市政施行75周年「功労表彰」 2023年11月3日

<社会的活動>

- ・厚生労働省人材開発統括官 職業能力開発専門調査員 2020年11月24日～2024年11月23日
- ・内閣官房内閣人事局 国家公務員健康増進等施策アドバイザー 2022年6月1日～2024年3月31日
- ・国立教育政策研究所 今後の生徒指導・進路指導研究センターにおける調査研究の在り方に関する懇談会委員 2022年7月～
- ・岡山県教育委員会 スーパーサイエンスハイスクール岡山県立岡山一宮高等学校運営指導委員会委員 2023年6月1日～2024年3月31日
- ・京都府教育委員会 令和5年度幼児教育アドバイザー 2023年4月1日～2024年3月31日
- ・兵庫県教育委員会 令和5年度キャリア教育推進委員会委員 2023年4月27日～2024年3月31日
- ・茨木市社会教育委員（社会教育委員の会議議長） 2010年7月1日～
- ・茨木市青少年問題協議会委員・専門部会委員 2012年7月11日～
- ・茨木市中央公民館運営審議会委員 2014年5月1日～
- ・高石市いじめ防止対策推進委員会委員（委員長） 2016年7月1日～
- ・高槻市教育委員会 不登校児童生徒支援システム推進モデル地域連絡会議委員 2022年4月1日～2024年3月31日
- ・社会福祉法人なみはや福祉会評議員 2013年6月1日～

- ・公益財団法人関西カウンセリングセンター理事 2016年4月1日～
- ・一般社団法人日本産業カウンセラー協会 実能力評価委員会委員 2019年4月1日～2025年3月31日

<所属学会>

日本キャリアデザイン学会、日本キャリア・カウンセリング学会、日本カウンセリング学会、日本教育心理学会、日本学生相談学会、日本キャリア教育学会、日本教育カウンセリング学会、日本青年心理学会

<学会活動>

学校心理士認定運営機構認定委員会委員、日本カウンセリング学会常任編集委員、日本教育カウンセリング学会査読協力委員、日本キャリアデザイン学会関西支部長、日本学校心理士会大阪支部副支部長、大阪教育カウンセラー協会副会長

<資格>

認定スーパーバイザー・スーパービジョンメンター（日本キャリア・カウンセリング学会）、学校心理士スーパーバイザー（学校心理士認定運営機構）、上級教育カウンセラー（日本教育カウンセラー協会）

溝部宏二教授

1) 研究活動：

2010年度に開始したメインの研究テーマの一つである「精神療法を日本独自の視点から考える（日本語臨床）」を2023年度も継続して実施した。「日本独自の論理である西田哲学を通して日本独自の精神療法である内観を検討する」が具体的な研究対象と方法である。このテーマで指導を仰いでいた西園昌久先生の遺志を継ぎ、関連領域としての阿闍世コンプレックスの意義を再考中である。赴任当初から携わっている神経発達障害児への支援としての研究・実践もペアレント・トレーニングへ焦点化して継続している。但し、今年度はCOVID-19が5類に移行したので2019年度以前の状況に戻す1年であった。

2) 研究助成：

2023年度：無

3) 社会活動：

- ・2023年4月～地域支援心理研究センター地域住民への相談事業 1回／週 相談員（於：地域支援心理研究センター分室）
- ・スクールカウンセラーへの無料事例研究会主催

1 回／3 月（於：追手門学院大学地域支援心理研究センター）

- ・高槻市自殺未遂者支援事業事例検討会 スーパーヴァイザー 年3 回：5 月24日、7 月26日、1 月24日（於：高槻保健所）
- ・2023 年7 月3 日～9 月15日 無料発達相談会5 名企画（於：追手門学院大学地域支援心理研究センター）
- ・2024 年1 月15日～3 月18日 無料発達相談会3 名企画（於：追手門学院大学地域支援心理研究センター）
- ・2024 年2 月17日 事例検討会および中鹿彰教授退任記念講演会 企画・総合司会（於：追手門学院大学総持寺キャンパス）
- ・2024 年3 月1 日 大阪府こころのほっとライン報告会「若者の『こころ』を考える～疾病・孤独そして自死～」講演（マイドームおおさか）

4）著書・論文：

溝部宏二（2023）. 「それって本当にHSP？」～精神科医が観たHSP概念普及の功罪～追手門学院大学地域支援心理研究センター紀要, 19, 10-25

5）学会発表：2023年度はなし

6）所属学会：

日本精神神経学会（専門医）、日本心身医学会（専門医）、日本精神分析学会、日本内観学会（理事）、日本心理臨床学会

7）学会活動：

日本内観学会理事

8）資格取得：

医師免許、精神保健指定医、公認心理師、精神科専門医、心身医療「精神科」専門医、臨床心理士

大神田麻子准教授

研究活動

- ・子どもと大人におけるロボット認識に関する検討
- ・ジェンダーステレオタイプの発達
- ・就学前児におけるYes-No質問に対する反応バイアスの発達の検討と文化比較検討

研究助成

- ・科学研究費助成事業 基盤研究（C）「子どもと大人におけるロボット認識の検討（研究課題番号：23K03011）」（2023年～2026年）

学会発表

赤澤美玖・大神田麻子（2023）. 幼児は意地悪をいじめと認識するか 日本心理学会第87回大会 神戸国際会議場・神戸国際展示場3 号館（兵庫）

2023 年9 月15日～17日

論文

Yamaguchi, M., Okanda, M., Moriguchi, Y., & Itakura, S. (2023). Young adults with imaginary companions: The role of anthropomorphism, loneliness, and perceived stress. *Personality and Individual Differences*, **207**, 112159. <https://doi.org/10.1016/j.paid.2023.112159>（査読付）

Okanda, M., Itakura, S., Király, I., & Somogyi, S. (2023). Do you know the answers? Japanese and Hungarian preschoolers' response tendencies to comprehensible and incomprehensible yes-no questions. *Cognitive Development*, **67**, 101357. <https://doi.org/10.1016/j.cogdev.2023.101357>（査読付）

その他

大神田麻子（2023）. 発達心理学とジェンダーステレオタイプ ムービング [北九州市立男女共同参画センター・ムーブ発行], 100, 8.

所属学会

日本発達心理学会 日本心理学会 日本赤ちゃん学会

櫻井 鼓准教授

1）研究活動（海外出張などを含む）

- ・「若者への性的グルーミング研究」（国際協力NGO チャイルド・フアンド・ジャパンとの共同研究）

2）研究助成（文部科学省科研費などを含む）

- ・科研費「自画撮り被害における児童の送信行動に影響を与える要因と被害予防教育の指標の検討」基盤研究（C）（2021年～2024年）研究代表者
- ・科研費「事件・事故の被害者等調査困難な人を対象とするインターネット調査の課題と対策」基盤研究（C）（2022年～2025年）研究協力者
- ・交通事故被害者の継続支援の方法に関する研究（公益財団法人交通事故総合分析センター・科学警察研究所・大正大学との共同研究）（2020年～2024年）

3）社会活動（講演会講師などを含む）

- ・警察庁交通局 令和5 年度交通事故被害者サポート事業検討会 委員
- ・国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 行動医学研究部 客員研究員
- ・兵庫県こころのケアセンター 客員研究員
- ・武蔵野大学 心理臨床センター 客員研究員
- ・兵庫県警察本部主催令和4 年度少年健全育成研究

- 会「グルーミングの実態と被害少年の心理について」講師（2023年2月10日 兵庫県警察本部）
- ・三重県臨床心理士会主催第3回例会「青少年の性被害・性加害の現状と対応」講師（2023年2月12日 三重県教育文化会館）
 - ・TikTok Japan主催 第16回セーフティーパートナー・カウンスル「グルーミングとこどもの支援」講師（2023年4月11日 渋谷ヒカリエ）
 - ・警察庁主催 カウンセリング（上級）専科「PFA」講師（2023年6月23日 関東管区警察学校）
 - ・寄稿「犯罪の対象に 性的グルーミングとは何か」共同通信社HP・「KyodoWeekly」・「政経週報」（2023年6月）
 - ・兵庫県主催 西播磨地域連携会議「グルーミングの実態とこどもの心理」講師（2023年7月21日 兵庫県西播磨県民局）
 - ・伊勢原市教育委員会主催「子どもへの性暴力 ～最近の動向を踏まえた理解と対応～」講師（2023年8月17日 伊勢原市役所）
 - ・横浜思春期問題研究所主催SCセミナー「非行、こどもの犯罪被害」講師（2023年9月 オンデマンド）
 - ・兵庫県警察本部主催「犯罪被害者支援～こどもの心理を知る」講師（2023年9月26日 兵庫県警察学校）
 - ・最高検察庁主催「被害者の心理と代理受傷」講師（2023年11月14日 最高検察庁）
 - ・兵庫県臨床心理士会司法・法務・警察領域委員会主催第1回研修会「性暴力被害者の心理と鑑定の実際」講師（2023年11月18日 オンライン）
 - ・警察庁主催 文部科学省後援「交通事故で家族を亡くしたこどもの支援に関するシンポジウム」講演者（2023年11月21日 神戸市産業振興センター）
 - ・政府のインターネットテレビ出演（2023年9月～）
 - ・警視庁防犯DVD監修（2023年10月～）
 - ・寄稿「特集にあたって」トラウマティック・ストレス, 22, (2023年12月)
- 4) 著書・論文
- ・櫻井 鼓 (2023). トラウマをめぐる 川口潤 (編) 小野田慶一・白砂大・増井啓太・櫻井鼓・宮川裕基・益田啓裕 (著) 心とは何か (pp.55-73) 追手門学院大学出版会
 - ・櫻井 鼓 (2023). トビックス「子どもの性被害 ―最近の動向」日本トラウマティック・ストレス学会HP
 - ・櫻井 鼓 (2023). 書評 齋藤 梓・岡本 かおり (編

著)『性暴力被害の心理支援』トラウマティック・ストレス, 21, 88.

- ・櫻井 鼓・上田 順一・藤田 悟郎 (2023). 児童の自画撮り画像送信・掲載行動のリスク要因 トラウマティック・ストレス, 22, 157-166
- 5) 学会発表
- ・櫻井 鼓 (2023). 日本トラウマティック・ストレス学会第22回大会「心理士による性犯罪被害者の鑑定の実際と課題」（2023年8月6日 武蔵野大学）
 - ・日本トラウマティック・ストレス学会第22回大会シンポジウム「急性期からのトラウマケア」企画者・座長（2023年8月6日 武蔵野大学）
- 6) 所属学会
- 日本トラウマティック・ストレス学会, 日本犯罪心理学会, 日本心理学会, 日本被害者学会, 日本精神分析学会, 日本臨床心理学会
- 7) 学会活動（役職、委員など）
- ・日本トラウマティック・ストレス学会 編集委員会委員
 - ・日本トラウマティック・ストレス学会 被害者支援委員会委員
 - ・日本被害者学会 編集委員会委員
 - ・日本臨床心理士会 被害者支援委員会委員（～2023年9月）
 - ・日本精神分析的な心理療法フォーラム理事（～2023年12月）
- 8) 資格取得・その他
- ・臨床心理士
 - ・公認心理師

駿地眞由美准教授

- 1) 研究活動
- 女性乳がん体験者のposttraumatic growthに着目し、その様相や、かかわる要因についての実証研究を行った。また、発達や行動上の困難を抱えた子どもとその家族に対する心理臨床の実践研究を行った。
- 2) 研究助成
- ・科研費基盤研究 (C)「乳がんサバイバーの体の体験過程におけるposttraumatic growth」(研究課題番号 20K03403) 研究代表者 (2020年4月1日～2024年3月31日)
 - ・追手門学院大学プロジェクト型共同研究奨励費制度「心理支援専門職のためのリカレント教育プログラムの開発 ―地域支援発達教育心理実践の協働

による相互成長」研究分担者（2021年4月1日～2024年3月31日）

3) 社会活動

- ・神戸市立中央市民病院倫理委員会委員
- ・京都府AIDS/HIV派遣カウンセラー 他

4) 学会発表

- ・駿地真由美（2023）. 女性乳がん経験者のPTGとsense of coherenceの関連 日本心理臨床学会第42回大会（対面大会：2023年9月3日、於：パシフィコ横浜、Web大会：9月22日～10月12日）
- ・駿地真由美（2022）. 乳がんサバイバーのPTG、ボディイメージ、心理的適応の関連－2波のパネル調査より－ 日本健康心理学会第36回大会（2023年12月2日）（於：神奈川大学みなとみらいキャンパス）

5) 所属学会

日本心理臨床学会、日本ユング心理学会、日本箱庭療法学会、日本健康心理学会

6) 資格

- ・臨床心理士
- ・公認心理師

田中秀明准教授

研究活動

研究課題：事象関連脳電位による顔知覚の研究

共同研究・競争的資金等の研究課題

口紅の方が髪の変化よりも女性の顔の魅力を高めて顔知覚に関わる脳神経時系列処理へ強い影響を与える－高密度脳波計による検討－ 公益財団法人 コーセーコスメトロジー研究財団 2023年度コスメトロジー研究助成 2023年12月－2025年12月 研究代表者、田中秀明

社会における活動

関西心理学会 委員

所属学会

日本生理心理学会、日本心理学会、日本臨床神経生理学会、日本認知心理学会、関西心理学会

辻 潔准教授

論文

- ・辻 潔 2023 子どもの心理療法の保護者との面接について（その1）追手門学院大学地域支援心理研究センター附属心の相談室紀要19, 9-27.

所属学会

日本心理学会、日本心理臨床学会、日本人間性心理学会

資格

臨床心理士 公認心理師

廣瀬智士准教授

研究活動

- ・VR空間内での行為主体感・身体所有感・没入感の測定
- ・多次元時系列データから低次元の個人差指標を抽出する方法の開発

研究助成

- ・追手門学院大学プロジェクト型共同研究奨励費制度（タイプB）「人間らしさの探求と創成」研究分担者
- ・挑戦的研究（萌芽）「子供の知的・発達障害の自動的かつ客観的なスクリーニング検査の実現」研究代表者

所属学会

- ・Motor Control 研究会
- ・日本神経科学学会

本田秀仁准教授

1) 研究活動

- ・人間が行う判断や意思決定の合理的な特徴についての研究
- ・合理的な判断や意思決定を行わせるための介入法（ナッジ、プースト）についての研究

2) 研究助成

- ・科学研究費助成金基盤研究B（研究代表者）テラーメイドプースト：多様な認知プロセスに合わせた合理的な意思決定促進法の構築
- ・令和4－6年度科学研究費補助金：基盤研究B認知バイアスから自閉症者の行動を探索：自閉症者の診療場面における説明再考に向けて

3) 社会活動

- ・本田秀仁. (2023). 認知バイアスを再考する：ヒューリスティック・資源合理性・思考の多様性. 東京大学文学部心理学研究室第61回心理学研究室セミナー（依頼講演）.
- ・本田秀仁. (2023). バイアスを解消する・合理性を高める：よりよい判断や意思決定に導くための方法を考える. 第122回日本皮膚科学学会総会教育講演 60 [共通講習：医療安全・感染対策]：新時代の医療安全・感染対策（依頼講演）.
- ・本田秀仁. (2023). 人間らしさを理解する：医療現場におけるよりよい判断や意思決定の実践に向けて. 認定病院患者安全推進協議会2022年度患者

安全推進全体フォーラム（基調講演）。

4) 著書・論文

- ・ Tokunaga, C., Otaki, Y., Honda, H., & Otaki, M. (2023). Exploration of appropriate media to influence sustainable on-site sanitation choices in Sri Lanka— visualization with still images or a video. *Heliyon*, 9, e21209.
- ・ Shirasuna, M., & Honda, H. (2023). Can individual subjective confidence in "training" questions predict group performance in "test" questions? *PLOS ONE*, 18 (3), e0280984.
- ・ Shirasuna, M., Kagawa, R., & Honda, H. (2023). A one-second wait improves judgment accuracy: A mouse tracking reveals cognitive processes during choice behaviors. In M. Goldwater, F. K. Anggoro, B. K. Hayes, & D. C. Ong (Eds.), *Proceedings of the 45th Annual Conference of the Cognitive Science Society* (p.3672; accepted for 6-page paper, but we chose to publish only abstracts).
- ・ 本田秀仁. (2023). 人間らしさを理解する；医療現場におけるよりよい判断や意思決定の実践に向けて。患者安全推進ジャーナル, 72, 76-82.
- ・ 本田秀仁・鈴木宏昭. (2023). バイアス概念の再検討から思考研究のこれまでとこれからを考える。認知科学, 30 (1), 18-27.

5) 学会発表

- ・ Honda, H., Kagawa, R., & Shirasuna, M. (2023). Nudging or boosting group: Utilizing anchoring effects for enhancing wisdom of crowds. 1er Colloque international à distance NUDGES et ÉDUCATION, in Virtual.
- ・ Shirasuna, M., Kagawa, R., & Honda, H. (2023). One-second wait: boosting to improve workers' accuracy with less their workload. 1er Colloque international à distance NUDGES et ÉDUCATION, in Virtual.
- ・ Honda, H., Kagawa, R., & Shirasuna, M. (2023). Effective utilization of anchor-biased estimates for the wisdom of crowds. 45th Annual Conference of the Cognitive Science Society, in Sydney, New South Wales, Australia.
- ・ Kagawa, R., Honda, H., & Nosato, H. (2023). The Impact of the balance between trust in advice and confidence in human judgment on advice utilization. 45th Annual Conference of the Cognitive Science Society, in Sydney, New South Wales, Australia.
- ・ Shirasuna, M., Kagawa, R., & Honda, H. (2023). A

one-second wait improves judgment accuracy: A mouse tracking reveals cognitive processes during choice behaviors. 45th Annual Conference of the Cognitive Science Society, in Sydney, New South Wales, Australia.

- ・ 本田秀仁・熊崎博一・植田一博. (2023). 不確実性理解に基づく意思決定：自閉スペクトラム症者と定型発達者の比較に基づく個人差の分析。日本心理学会第87回大会, 2B-059-PL.
- ・ 本田秀仁・香川璃奈・白砂大. (2023). 効果的な集合知を引き出すためのアンカリングバイアスの活用：理論的分析と現実的な数値推定への応用。日本認知科学会第40回大会, P2-037.
- ・ 香川璃奈・本田秀仁・野里博和. (2023). 予測精度の高いAIを利用しても、人間の意思決定は正確にならない。日本認知科学会第40回大会, P1-065.
- ・ 白砂大・香川璃奈・本田秀仁. (2023). 1秒待ちブースト：正答率と認知プロセスに基づく効果の検証。日本認知科学会第40回大会, P3-001A.
- ・ 楊明哲・橋本敦史・Jiaxin Ma・本田秀仁・田中一敏. (2023). 卓球映像からの打球の攻守推定。MIRU2023, IS3-108.
- ・ 本田秀仁・白砂大・川口潤・松香敏彦・植田一博. (2023). 実世界における記憶の誤り：環境の確率的性質に関する推論プロセス。日本認知心理学会第21回大会, O_E05.
- ・ 白砂大・香川璃奈・本田秀仁. (2023). 適応的道具箱の認知プロセス：マウストラッキングによる検討。日本認知心理学会第21回大会, O_E04.

6) 所属学会

- ・ 行動経済学会
- ・ 日本心理学会
- ・ 日本認知科学会
- ・ 日本認知心理学会
- ・ Cognitive Science Society
- ・ Society for Judgment and Decision Making

7) 学会活動

- ・ 2020年6月－
Editorial Boards, *Journal of Cognitive Science*
- ・ 2021年1月－
日本認知科学会 運営委員
- ・ 2023年8月－
Review Editor, *Frontiers in Psychology* (section, Cognitive Science)
- ・ 2023年9月
日本認知科学会第40回大会プログラム委員

・2023年12月－

行動経済学会「行動経済学」編集委員

増井啓太准教授

1) 研究活動

・Dark Tetrad（マキャベリアニズム、サイコパシー、自己愛性傾向、サディズム傾向の総称）傾向と社会適応との関連の検討

・インターネット上の問題行動の生起メカニズムの検討

・孤独・孤立の抑制に関わる心理メカニズムの解明

2) 研究助成

・研究分担者

2020年度～2024年度 科学研究費補助金（基盤研究（B））「社会的排除の生成・維持メカニズムの解明と抑制要因の探求」

3) 社会活動

該当なし

4) 著書・論文

Keita Masui (2023). Interactional effects of adverse childhood experiences, psychopathy, and everyday sadism on Internet trolling. *Personality and Individual Differences*, 214, 112327.

5) 学会発表

Keita Masui (2024). The relationship between spitefulness and Internet trolling: The moderating effect of adverse childhood experiences. At the 25th Annual Meeting of the Society for Personality and Social Psychology, San Diego, USA.

増井啓太 (2023). 日本語版スパイト傾向尺度の信頼性および妥当性の検討 日本心理学会第87回大会

増井啓太 (2023). Dark Triadと道徳基盤がネット荒らしに及ぼす影響 日本パーソナリティ心理学会第32回大会

6) 所属学会

日本心理学会、日本社会心理学会、日本犯罪心理学会、日本パーソナリティ心理学会、日本認知心理学会

7) 学会活動

該当なし

8) 資格取得・その他

該当なし

益田啓裕准教授

1) 研究活動

・福祉におけるケア概念の明確化について

・児童福祉施設に携わる心理職及び対人援助職の教育・トレーニングに関する研究

・ライフストーリーワークの理論的基盤に関する研究

2) 研究助成

・追手門学院大学プロジェクト型共同研究奨励費制度（研究分担者）「心理支援専門職のためのリカレント教育プログラムの開発——地域支援発達教育心理実践の協働による相互成長——」（2021年4月～2024年3月）

・科学研究費補助金（若手研究）「児童福祉施設における生活のケアと心理的支援の明確化に関する研究」研究代表者（2020年4月～2024年3月）

3) 社会活動

・ワークショップ講師（ゼミ生との共同活動）門真市公民連携子どもの居場所事業「子どもLOBBY」キャリア教育プロジェクト「小学生向けストレスマネジメントワークショップ」2023年5月28日 於：イズミヤ門真店

・研修会講師（単独）児童養護施設双葉学園職員研修会「社会的養護のケアの理論を学ぶ」2023年6月5日 於：児童養護施設双葉学園

・研修会講師 令和5年度はぐくみホーム更新研修会「トラウマインフォームドケアについて」2023年7月8日 於：藤井寺市立市民総合会館パープルホール

・研修会講師 養育里親登録更新研修会「子どもの心理的理解とトラウマケア」2023年8月28日 於：枚方市総合福祉センター

・研修会講師 養育里親登録更新研修会「被虐待児の心理面を理解及びケア」2023年8月29日 於：和泉乳児院

・研修会講師（単独）茨木市立三島小学校家庭教育学級研修会「子どもも保護者もケアされる安心感のある子育てについて考えよう」2023年9月15日 於：茨木市立三島小学校和室

・研修会講師（単独）児童養護施設双葉学園職員研修会「トラウマインフォームドケアを学ぶ」2023年9月26日 於：児童養護施設双葉学園

・研修会講師（単独）児童養護施設子供の家職員研修会「子どもケアの視点を学ぶ」2023年9月28日 於：児童養護施設子供の家（東京都清瀬市）

・研修会講師（単独）児童養護施設ヨハネ学園職員

- 研修会「職員の強みを活かした支援を考える」
2023年10月17日 於：児童養護施設ヨハネ学園
- ・研修会講師（単独）奈良県社会的養護従事者キャリアアップ研修会「ライフストーリーワーク研修（上級編）」2023年11月17日 於：児童養護施設天理養徳院
 - ・研修会講師（単独）2023年度北摂児童施設連盟第1回北摂合同研修会「児童福祉施設において活かされる心理の専門性」2023年11月21日 於：水上隣保館
 - ・研修会講師 令和5年度はぐくみホーム更新研修「トラウマのある子どもへのケアについて」2023年12月3日 於：藤井寺市立市民総合会館パープルホール
 - ・研修会講師（単独）児童養護施設双葉学園職員研修会「アタッチメント理論に基づいたケアを学ぶ」2024年1月22日 於：児童養護施設双葉学園
 - ・研修会講師 養育里親登録更新研修会「トラウマを受けた子どもの心理面の理解及びケア」2024年1月28日 於：和泉乳児院
 - ・研修会講師（単独）神戸市里親支援者向け研修会「ソーシャルベダゴジー」2024年2月6日 於：神戸市立総合福祉センター
 - ・研修会講師（単独）神戸市児童養護施設連盟スキルアップ研修「ソーシャルベダゴジーとチームアプローチ」2024年2月8日 於：神戸市立総合福祉センター
 - ・研修会講師 養育里親登録更新研修会「子どもの発達とトラウマの理解」2024年2月18日 於：ラポール枚方
- 4) 著書・論文
- ・早川 洋・鈴木 隆文・中村 有生・益田 啓裕（印刷中）. 児童心理治療施設における入所児童の権利擁護に関する取り組みについての調査 心理治療と治療教育 全国児童心理治療施設協議会研究紀要, 全国児童心理治療施設協議会
- 5) 学会発表
- ・早川 洋・鈴木 隆文・中村 有生・益田 啓裕 (2023). 「全国児童心理治療施設における権利擁護に関する調査報告」(2023年度全国児童心理治療施設職員研修会) 発表者 2023年9月12日 於：ホテルヘリテージ)
- 6) 所属学会
- International Society for Prevention of Child Abuse and Neglect, 日本心理臨床学会, 日本EMDR学会, 日本子ども虐待防止学会, 日本福祉心理学会, 日本

ソーシャルベダゴジー学会（理事）, 日本児童青年精神医学会, 日本人間性心理学会

- 7) 資格
- 臨床心理士
公認心理師

荒木浩子講師

- 1) 研究活動テーマ
- ・学生相談室の運営、体制について
 - ・HIV陽性者への心理的支援についての検討
- 2) 研究助成
- なし
- 3) 著書・論文・その他の著作
- ・荒木浩子 (2023) 活動報告書, 追手門学院大学学生相談室 2022年度年報, 33, 32-43
 - ・永野浩二・河崎俊博・益田啓裕・荒木浩子・宮川裕基 (2022) 心理臨床家の Personal Development からみたエンカウンター・グループとフォーカシング体験の意義 追手門学院大学地域支援心理研究センター附属 心の相談室紀要, 19, 28-42.
- 4) 学会発表
- 清水亜紀子・山本喜晴・荒木浩子・大山泰宏他9名, 死から老いを生きることへと変容したHIV陽性者とのカウンセリング, 日本心理臨床学会第42回大会 口頭発表 (2023年9月1日)
- 5) 所属学会
- 日本臨床心理学会、日本箱庭療法学会
- 6) 資格
- 臨床心理士, 公認心理師

嶋 大樹講師

- 1) 研究活動
- ・アクセプタンス&コミットメント・セラピー（ACT）に基づく支援プログラム開発とプロセス研究
 - ・関係フレーム理論（RFT）の基礎研究とその応用方法の開発
 - ・ACTとRFTの架け橋研究
 - ・Prosocialの社会実装
 - ・プロセスベースセラピーの研究／実践方法の精緻化
- 2) 研究助成
- ・公益財団法人日本生命財団 児童・少年の健全育成実践的研究助成「高校生の保護者に対する精神疾患に対するスティグマ介入の開発」共同研究者 (2022年8月-2023年7月)

・日本私立学校振興・共済事業団 2023年度若手・女性研究者奨励金「大学生の心理的健康増進に対するプロセス焦点型Web支援の開発」代表研究者（2023年5月－2024年3月）

・科学研究費補助事業（若手研究）「変容プロセスの視点に基づくアクセプタンスの作用機序の解明と臨床応用（科研費研究課題番号:23K1292）」研究代表者（2023年4月－2027年3月）

3) 社会活動

・CBTメンタルサポート主催「はじめての臨床行動分析」講師（8月5日）

・神戸市ゲートキーパー養成研修講師（8月17日）

・日本公認心理師ネットワーク主催「ACTにおける価値って何だろう？」講師（11月26日）

・神戸市健康局保健所精神保健福祉センター主催「精神保健福祉従事者研修」講師（12月15日）

・共調的社会脳研究会主催「コミュニケーション&人間とは何か？セミナーシリーズ」話題提供（12月24日）

4) 著書・論文

・Hofmann, S. G., Hayes, S. C., & Lorscheid, D. N. (2021). *Learning Process-Based Therapy: A Skills Training Manual for Targeting the Core Processes of Psychological Change in Clinical Practice*. New Harbinger Publications.

（ホフマン, S. G.・ヘイズ, S. C.・ロールシャイト, D. N. 菅原 大地・椋原 潤・伊藤 正哉（監訳）

（2023）. プロセス・ベースド・セラピーをまなぶ——「心の変化のプロセス」をターゲットとした統合的ビジョン——金剛出版 第9章担当：システムを崩す（pp159-176）

・嶋 大樹・井上 和哉・本田 暉・高橋 まどか（2023）. 外来臨床における標的行動選定プロセスとその特徴の記述に向けた系統的レビュー 認知行動療法研究, 49（2）, 63-74. <https://doi.org/10.24468/jjbct.22-014>

・嶋 大樹・熊野 宏昭（2023）. 体験の回避が行動活性化に与える影響に対する調整変数の探索——アクセプタンスの予備的要素分析——行動医学研究, 27, 21-29. <https://doi.org/10.1131/jjbm.27.21>

・嶋 大樹・熊野 宏昭（2023）. アクセプタンス&コミットメント・セラピー——「行動」としての「認知」, 「行動」に影響を与える「認知」との付き合い方——精神療法, 49（6）, 52-56.

・Shima, T., & Muto, T. (in press). Profiles of psychological flexibility in Japan: A conceptual

replication. *Journal of Contextual Behavioral Science*, 31. <https://doi.org/10.1016/j.jcbs.2023.11.006>

5) 学会発表

・Shima, T. (2023). Differential effects between types of onomatopoeia in metaphors. ACBS World Conference 2023 (24-28 July) (Cyprus) 【ポスター発表】

・嶋 大樹（2023）. オノマトペの使用がメタファーの効果に及ぼす影響 日本認知・行動療法学会第49回大会（10月7日－9日）（北海道）【ポスター発表】

・嶋 大樹（2023）. アクセプタンス&コミットメント・セラピーによる糖尿病患者の生活習慣支援 第36回日本総合病院精神医学会総会（11月17日－18日）（宮城）【シンポジウム話題提供】

・嶋 大樹・津田 菜摘（2023）. 大学生の心理的健康の保持増進に対するオンラインACTプログラムの開発——個別プロセス変数に着目した追加分析——日本心理学会第87回大会（9月15日－17日）（兵庫）【ポスター発表】

・Tsuda, N., Shima, T., Katagiri, Y., & Kano, R. (2023). The effect of values clarification for returning to work program. ACBS World Conference 2023 (24-28 July) (Cyprus) 【ポスター発表】

6) 所属学会

日本心理学会, 日本認知・行動療法学会, 日本マインドフルネス学会, Association for Contextual Behavioral Science, 日本行動分析学会, 日本行動医学会, ACT Japan: The Japanese Association for Contextual Behavioral Science, 日本認知療法・認知行動療法学会, 日本心身医学会, 日本糖尿病学会, 日本心理臨床学会

7) 学会活動（役職, 委員など）

・ACT Japan: The Japanese Association for Contextual Behavioral Science 理事

・日本認知・行動療法学会 編集委員

8) 資格

・臨床心理士

・公認心理師

宮川裕基講師

1) 研究活動（海外出張などを含む）

・セルフコンパッション（自分への思いやり）と社会的排斥への対処の関連性の検討
・対人目標と自己表現に関する研究

2) 研究助成（文部科学省科研費などを含む）

・科学研究費補助事業（若手研究）セルフコンパッ

ションが社会的排斥過程に及ぼす影響の検討 課題番号20K14147（研究代表者）2020年4月－2024年3月

- ・科学研究費補助事業（基盤研究C）親密関係の開始から深化にいたる継続基盤の転換プロセス：幻想主義から現実主義へ 課題番号 21K02973（研究分担者）2021年4月－2025年3月
- ・科学研究費補助事業（基盤研究B）集合的効力感がDV抑制機能を果たす条件の解明：社会生態的な予防介入に向けて 課題番号 23H01031（研究分担者）2023年4月－2028年3月

3）社会活動（講演会講師などを含む）

- ・令和5年度三重県スクールカウンセラー
- ・令和5年度三重県教育委員会リワーク支援相談員

4）著書・論文

論文

Miyagawa, Y. (2023). Self-compassion promotes self-concept clarity and self-change in response to negative events. *Journal of Personality*. Advance online publication. <https://doi.org/10.1111/jopy.12885>

Miyagawa, Y., Kanemasa, Y., & Taniguchi, J. (2023). A compassionate and worthy self: latent profiles of self-compassion and self-esteem in relation to intrapersonal and interpersonal functioning. *Current Psychology*, Advance online publication. <https://doi.org/10.1007/s12144-023-05428-w>

Miyagawa, Y., & Neff, K. D. (2023). How self-compassion operates within individuals: An examination of latent profiles of state self-compassion in the U.S. and Japan. *Mindfulness*, 14, 1371-1382. <https://doi.org/10.1007/s12671-023-02143-2>

Kanemasa, Y., Miyagawa, Y., & Arai, T. (2024). Attachment anxiety and the Dark Triad increase stalking after breakups of romantic relationships through psychological maltreatment of romantic partners and reactions to breakups. *Aggressive Behavior*. Advance online publication. <https://doi.org/10.1002/ab.22133>

永野浩二・河崎俊博・益田 啓裕・荒木浩子・宮川裕基 (2022). 心理臨床家のPersonal Development からみたエンカウンター・グループとフォーカシング体験の意義 追手門学院大学地域支援心理研究センター附属 心の相談室紀要, 19, 28-42.

5）学会発表

ポスター発表

宮川裕基 (2023). セルフコンパッションによる社会的 排斥の悪影響の緩和 —セルフコンパッション状態誘導法を用いた検討— 日本社会心理学会第64回大会

Miyagawa, Y. (2024). Inducing self-compassionate mind promotes self-concept clarity and self-change. The 25th annual convention of Society for Personality and Social Psychology.

宮川裕基・金政祐司・谷口淳一. (2023). セルフ・コンパッションと自尊心の潜在プロフィール—ネガティブな出来事への反応との関連から— 日本心理学会第87回大会

宮川裕基・谷口淳一. (2023). 対人目標と夫婦関係における 真正・非真正の自己表現との関連性 日本グループ・ダイナミックス学会第69回大会

金政祐司・荒井崇史・宮川裕基 (2023). パーソナリティ特性ならびにパートナーへの心理的な暴力が関係破綻後の反応やストーキング加害を増大させるプロセスについての検討 日本心理学会第87回大会

金政祐司・宮川裕基・古村健太郎 (2024). アタッチメントスタイルが被社会的排斥経験を介して心理的IPV加害に及ぼす影響 日本発達心理学会第35回大会

森下雄輔・谷口淳一・宮川裕基 (2023). リーダー評価が上司からのサポート期待と心理的安全性に与える影響 日本社会心理学会第64回大会

谷口淳一・宮川裕基 (2023). 日本語版真正・非真正自己表現尺度 (AIES-J) の開発 日本グループ・ダイナミックス学会第69回大会

6）所属学会

日本心理学会、日本社会心理学会、日本グループ・ダイナミックス学会、日本心理臨床学会、Society for Personality and Social Psychology、International Society for Self and Identity

7）学会活動（役職、委員など）

日本グループ・ダイナミックス学会事務局補佐
Editorial Board Member of Asian Journal of Social Psychology

8）資格取得・その他

- ・公認心理師
- ・臨床心理士
- ・中学校教諭1種免許状（英語）
- ・高等学校教諭1種免許状（英語）

神崎享子特任准教授

1) 研究教育活動

2023年度は引き続き、「人間らしさの探求と創成」を主眼に医療・福祉を対象に自然言語処理の研究を行った。具体的には2022年度に行った認知症高齢者と介護士の対話の特徴分析を踏まえ、対話システムに介護士の配慮を考慮した対話を組み込んだ。さらに愛知県の病院豊橋ハートセンターとの共同研究で、自然言語処理技術で医療現場を支えるスマートホスピタルのプロジェクトにおいて、病院のHPのQAシステム、医療カルテの自動生成などのテーマを絞り込み、研究を開始した。また、引き続き国立国語研究所共同研究プロジェクト「述語の意味と文法に関する実証的類型論」へ共同研究員として参画した。

4月から6月にかけて、イタリア人研究者を招聘し、研究交流と参画するISOの活動についてディスカッションを行った。

また教育面では、JSTの「さくらプログラム」に採用され、12月にブラバ大学（タイ）から学生9名が本学に来学し、本学の学生と交流を行った。

2024年には2月に本学から3年生12名がブラバ大学を訪問する予定である。

2) 研究助成

- ・追手門学院大学プロジェクト型共同研究奨励費制度（タイプB）「人間らしさの探求と創成」研究分担者
- ・科研費基盤（B）「学習者の発話を適切に把握する新しい音声認知手法の開発とその英語教育での実証」研究分担者
- ・豊橋技術科学大学との共同研究「スマートホスピタル共同研究講座における音声入力によるAI自動問診・カルテ作成支援システムに関する研究」研究代表者

3) 社会活動

ISO TC37/SC4/WG5の国際標準化にExpertとして参画

4) 研究発表・講演

言語と国際標準、井佐原均・神崎享子、言語政策研究への案内、村岡英裕・上村圭介（編）、くろしお出版、2024年

Kyoko Kanzaki & Hitoshi Isahara, 'NLP Applications for smart hospitals, tourism and language learning', The 20th China-Japan Natural Language Processing Joint Promotion Conference (CJNLP2023), 2023年11月12日

Kyoko Kanzaki 'Potential of Natural Language

Processing Technologies including Generative Artificial Intelligence in the Medical and Welfare Fields.', 16th International Conference on Knowledge and Smart Technology (KST2024) 基調講演, 2024年2月

5) 所属学会

言語処理学会、言語科学会、日本言語学会、計量国語学会、日本語学

菰淵寛仁特任准教授

研究活動（研究テーマ）

- ・身体情報や位置情報等の物理情報センシングを通じた知覚情報処理の基本メカニズム構築
- ・人工知能処理の基本メカニズムに基づく実用化研究（繊細なハンドマニピュレーションの実現）

研究助成

- ・追手門学院大学2020年度 プロジェクト型共同研究奨励費制度（タイプB）人間らしさの探求と創成＜分担＞知覚情報処理とアバターロボティクス（研究者）

著書・論文・学会発表

- ・H.Komobuchi, S.Maruno. "Stability Enhancement in VR Hand Manipulation through Dynamic Truss Structure Connections," International Conference on Image Electronics and Visual Computing. (to be published in Mar. 2024)
- ・菰淵 寛仁, 林 勇樹, 丸野 進, 松井 健. "仮想空間における選手アバターを利用した多目的球技場カメラの最適配置 (1) ～実在する多目的球技場の3Dシミュレーション環境構築～," 映像情報メディア学会年次大会, 23C-3 (2023).
- ・林 勇樹, 菰淵 寛仁, 丸野 進, 松井 健. "仮想空間における選手アバターを利用した多目的球技場カメラの最適配置 (2) ～視線軌跡を用いたカメラ配置の定量評価～," 映像情報メディア学会年次大会, 23C-4 (2023).
- ・菰淵 寛仁, 丸野 進. "VRゴーグル指先位置トラッキングを利用した自己視可能な主体感インタフェースの検討～対象物サイズ推定に対する影響因子～," 画像電子学会全国大会, P2-1, #7 (2023).
- ・菰淵 寛仁, 丸野 進. "自己視可能な主体感IFの実現に向けた検討～細かな指先作業にも対応するVRハンドインタラクション～," 映像情報メディア学会, vol. 47, no.35, HI2023-21, pp. 25-28 (2023).

所属学会

- ・映像情報メディア学会
- ・画像電子学会

石田拓也特任助教

1) 研究活動

- ・発達障害の心理的布置について、自己のまとまりという視点からの検討
- ・マネジメント概念のスクールカウンセリングへの応用についての研究

2) 研究助成

- ・追手門学院大学2021年度プロジェクト型共同研究奨励費制度（研究分担者）「心理支援専門職のためのリカレント教育プログラムの開発 地域支援発達教育心理実践の協働による相互成長」（2021年～2023年）

3) 社会活動

- ・MuSuBu. NPO法人こくり インタビュー企画。（インタビュー記事の寄稿）2023年3月29日（オンライン）
- ・「『週1回』と介入技法」．日本精神分析的心理療法フォーラム大会企画ワークショップ．（企画・司会）2023年7月16日（京都大学）
- ・遊ぶこと．上本町心理臨床オフィス主催 若手臨床家による独立学派精神分析の観点にもとづく日常臨床セミナー．（講師）2023年5月14日（オンライン）
- ・抱えること —Winnicottの発達論・病理学・治療論—．上本町心理臨床オフィス主催 若手臨床家による独立学派精神分析の観点にもとづく日常臨床セミナー．（講師）2023年12月3日（オンライン）
- ・日本思春期青年期精神医学会 第36回大会実行委員

4) 著書・論文

- ・石田拓也（2023）．スクールカウンセラーの“助言”をめぐる一．追手門学院大学心の相談室紀要．19巻：2-8．
- ・石田拓也（2023）．週1回心理療法におけるカウチの使用．追手門学院大学地域支援心理研究センター紀要．19巻：2-9．

5) 学会発表

- ・石田拓也．“選択”と心的な死：ボルノグラフィを結節点に．日本精神分析的心理療法フォーラム第11回大会．会員企画分科会「精神分析とボルノグラフィ」．（シンポジスト）2023年7月15日（京都大学）
- ・石田拓也．何が内的設定の先に転移するのか．心理臨床学会第42回大会自主シンポジウム「心理臨床家が精神分析理論に馴染むために—内的枠組みの再考—」．（指定討論）2023年9月24日（オンラ

イン）

- ・石田拓也．搾取される権利—師弟という関係性をめぐって—．心理臨床学会第42回大会自主シンポジウム「心理臨床の現場でたちあられる「搾取」について—搾取の関係性の視点をもつ意義—」．（シンポジスト）2023年10月7日（オンライン）
- ・石田拓也．マネジメントにおける権威の効用．心理臨床学会第42回大会自主シンポジウム「心理臨床におけるマネジメント②—学校への危機介入に独立学派精神分析の視点を活かす—」．（シンポジスト）2023年10月9日（オンライン）
- ・石田拓也．不在の痕跡に気づくこと．日本精神分析学会第69回大会．（一般演題）2023年11月4日（広島国際会議場）

6) 所属学会

- ・日本精神分析学会．日本思春期青年期精神医学会．日本心理臨床学会．日本ウィニコット協会．日本精神分析的心理療法フォーラム

7) 学会活動

- ・日本ウィニコット協会 事務局担当理事
- ・日本精神分析的心理療法フォーラム 理事（ワークショップ委員）
- ・日本思春期青年期精神医学会 運営委員．編集委員

8) 資格取得・その他

- ・臨床心理士
- ・公認心理師

大塚結喜特任助教

1) 研究活動

- ・「心の理論」を中心とする高齢者のコミュニケーション能力の低下メカニズムの解明
- ・高齢者におけるワーキングメモリの個人差を生み出す認知メカニズムの解明

2) 研究助成

- 日本学術振興会科学研究費補助金・基盤研究（C）「加齢による社会性低下機構の解明—感情と抑制機能を中心とする検討」課題番号：20K03497（研究代表者）2020年4月～2023年3月

5) 学会発表

- 大塚結喜・中井隆介・板倉昭二・志澤美保・佐藤鮎美・阿部修士「高齢者における睡眠時間と認知機能の個人差の関連性」第20回日本ワーキングメモリ学会大会（京都大学）

6) 所属学会

日本心理学会、日本ワーキングメモリ学会、
Psychonomic Society

河嶋珠実特任助教

1) 研究活動（海外出張などを含む）

- ・ロボット介在療法／介在活動における治療効果の質的分析
- ・専門学校での学生相談機能の構造化に関する探索的研究

2) 研究助成

- ・追手門学院大学2021年度プロジェクト型共同研究奨励費制度（研究分担者）「心理支援専門職のためのリカレント教育プログラムの開発—地域支援発達教育心理実践の協同による相互成長」（2021～2023年度）

3) 社会活動

- ・京都府臨床心理士会主催第83回研修会（研修委員）「事例検討、再考」2023年6月11日（キャンパスプラザ京都）
- ・日本臨床心理士資格認定協会短期型研修会：向日葵心理臨床研究会（事例発表者）「希死念慮を訴える青年期女性との電話面接—心理療法の枠について再考する—」2023年12月17日（オンライン開催）
- ・京都府臨床心理士会主催第84回研修会（研修委員）「臨床の中のアセスメント」2024年2月4日（京都府総合教育センター）

4) 著書・論文

なし

5) 学会発表

なし

6) 所属学会

日本心理臨床学会、日本緩和医療学会

7) 学会活動（役職、委員など）

なし

8) 資格取得・その他

公認心理師、臨床心理士

白砂 大特任助教

1) 研究活動（海外出張などを含む）

- ・人の判断、特にヒューリスティックの適応的な使用に関する実験的・理論的な検証
- ・個々人の確信度が集団で行う判断に与える影響についての、計算機シミュレーションを駆使した理論的検証

- ・正確な判断を促す低コストの介入策、およびその際の認知プロセスに関する実験的検証

2) 研究助成（文部科学省科研費などを含む）

【学術クラウドファンディング】

アカデミスト月額支援型プロジェクト（採択テーマ：クイズ×認知科学：早押しクイズに潜む人の知性を実験的に検証したい）。

3) 社会活動（講演会講師などを含む）

白砂大. (2023). 若手研究者からみる「AI for Science」ショートピッチ ※ academist Prize 3 期生の一員として発表

Shirasuna, M., Kagawa, R., & Honda, H. (2023). One-second wait: boosting to improve workers' accuracy with less their workload. Oral presented at 1er Colloque international à distance NUDGES et ÉDUCATIO, in virtual.

Honda, H., Kagawa, R., & Shirasuna, M. (2023). Nudging or boosting group: utilizing anchoring effects for enhancing wisdom of crowds. Oral presented at 1er Colloque international à distance NUDGES et ÉDUCATIO, in virtual.

白砂大・小坂健太 (2023). 早押しクイズから解き明かす人の知性：認知科学的アプローチに基づく事例研究. 超異分野学会 大阪大会2023（株式会社リバネス主催）. ポスター発表 P-021.

4) 著書・論文

Shirasuna, M., & Honda, H. (2023). Can individual subjective confidence in training questions predict group performance in test questions? PLOS ONE. 18 (3): e0280984.

白砂大. (2023). 「人の知性」をめぐる冒険—直感・プロセス・集合知 川口潤（編）心とは何か：Introduction to Psychology...（pp. 17-32）追手門学院大学出版会.

5) 学会発表

Shirasuna, M., Kagawa, R., & Honda, H. (2023). A one-second wait improves judgment accuracy: A mouse tracking reveals cognitive processes during choice behaviors. Poster presented at the 45th Annual Conference of the Cognitive Science Society.

Honda, H., Kagawa, R., & Shirasuna, M. (2023). Effective utilization of anchor-biased estimates for the wisdom of crowds. Poster presented at the 45th Annual Conference of the Cognitive Science Society.

白砂大・小坂健太. (2023). 不確実性下のボタン押し：早押しクイズに見られる判断の傾向とプ

レーススタイルの変化. 行動経済学会第17回大会.

白砂大・香川璃奈・本田秀仁. (2023). 1秒待ちブースト：正答率と認知プロセスに基づく効果の検証. 日本認知科学会第40回大会, P3-001A.

本田秀仁・香川璃奈・白砂大. (2023). 効果的な集合知を引き出すためのアンカリングバイアスの活用：理論的分析と現実的な数値推定への応用. 日本認知科学会第40回大会, P2-037.

白砂大・香川璃奈・本田秀仁. (2023). 適応的道具箱の認知プロセス：マウストラッキングによる検討. 日本認知心理学会第21回大会, O_E04.

本田秀仁・白砂大・川口潤・松香敏彦・植田一博. (2023). 実世界における記憶の誤り：環境の確率的性質に関する推論プロセス. 日本認知心理学会第21回大会, O_E05.

6) 所属学会

- ・日本認知科学会
- ・日本認知心理学会
- ・行動経済学会
- ・人工知能学会
- ・Cognitive Science Society
- ・Society for Judgment and Decision Making

7) 学会活動（役職、委員など）

【査読】

- ・『認知科学』
- ・CogSci2023 full paper proceedings
- ・Journal of Cognitive Science

8) 資格取得・その他

【プレプリント】

白砂大・小坂健太. (2023). 早押しクイズに見る不確実性下の判断：クイズ大会の行動データに基づく事例研究. PsyArXiv.

Honda, H., Kagawa, R., & Shirasuna, M. (2023). The nature of anchor-biased estimates and its application to the wisdom of crowds. PsyArXiv.

Shirasuna, M., Kagawa, R., & Honda, H. (2023). "One-second wait": A simple and effective intervention to boost judgment accuracy. PsyArXiv.

【webメディア】

QuizKnock取材記事『クイズ王はAIよりスゴい？「クイズの研究者」が考える未来予想図』

【受賞】

academist Prize 第3期「AI×〇〇学で未来をつくる」採択（テーマ『クイズ×認知科学：早押しクイズに潜む人の知性を実験的に検証したい』）

田中宏明特任助教

1) 研究活動（海外出張などを含む）

他者から排除されることで、所属集団の実体性を高く評価するようになるかどうかを検討している。これまで、排除されることで集団内部が一貫していると認識される傾向があることが知られていたが、集団が変化せず継続すると認識される可能性を示唆する文献を探索した。

2) 研究助成（文部科学省科研費などを含む）

該当なし

3) 社会活動（講演会講師などを含む）

安威地区の若者支援を行う施設において、学習支援活動を行った。

4) 著書・論文

該当なし

5) 学会発表

該当なし

6) 所属学会

日本心理学会・日本社会心理学会・日本グループダイナミックス学会・関西心理学会・The Society for Personality and Social Psychology

7) 学会活動（役職、委員など）

該当なし

8) 資格取得・その他

専門社会調査士

谷 恵介特任助教

2023年

1) 最近の研究課題

- ・脳刺激を用いたヒトの空間定位メカニズムに関する研究
- ・重力空間におけるヒトの運動制御に関する研究
- ・身体運動中の触覚知覚特性についての研究
- ・自己運動の認知に関する研究

2) 研究助成

- ・科研費・若手研究（代表）「ヒトの重力空間知覚に関わる神経基盤の解明－新たな介入方法の開発を目指して－」2019年－2023年
- ・科研費・若手研究（代表）「自己運動中のヒトの触覚知覚特性の解明」2023年－2026年

3) 社会活動

講演等

- ・谷恵介. (2023). 空間認知と小脳. 第4回小脳リハビリテーション研究セッションセミナー. 2023年2月11日. オンライン開催（招待あり）

4) 著書・論文

- ・ Okuuchi S, Tani K, Kushiro K. (2023). Temporal properties of the speed-accuracy trade-off for arm-pointing movements in various directions around the body. *PloS one*, 18: e0291715.
- ・ 谷恵介. (2023). 重力下における身体軸知覚の特性とその神経基盤. *基礎理学療法学*, 26巻 1号 p.36-41.
- ・ Tani K, Iio S., Kamiya M, Yoshizawa K, Shigematsu T, Fujishima I, Tanaka S. (2023). Neuroanatomy of reduced distortion of body-centred spatial coding during body tilt in stroke patients. *Scientific reports*, 13: 11853.
- ・ Tani K, Uehara S, Tanaka S. (2023). Association Between Body Tilt and Egocentric Estimates Near Upright. *Multisensory Research*, 36: 367-386.

5) 学会発表

- ・ 谷恵介, 田中宏明, 平田晃正, 森信彦, 細見晃一, 松木明好. (2023). 重力知覚における視覚依存性に対する小脳の寄与—低頻度経頭蓋磁気刺激による検証—. 第28回基礎理学療法. 12月2-3日. 広島. (ポスター発表)
- ・ Tani K, Naito E, Mizobe K, Hirose S. (2023). A role of right middle occipital gyrus in egocentric spatial orientation when the body is tilted: Evidence from a pre-registered rTMS study. *Neuroscience 2023*, November 11-15th. Washington D.C. USA. (ポスター発表)
- ・ 谷恵介, 奥内壮馬, 久代恵介. (2023). 身体傾斜がもたらす上肢到達運動の偏倚—手・標的位置および手初期位置への視覚フィードバックの影響—. 第17回モーターコントロール研究会. 8月24-26日. 東京. (ポスター発表)

6) 所属学会

北米神経科学会、基礎理学療学会、神経理学療法学会、日本神経科学会、基礎心理学会、モーターコントロール研究会

7) 資格

理学療法士

2023年度心理学論集・特集 「職業としての心理学」 題目一覧

- 天田 大樹 企業で働く心理職の実際
- 新井美和子 キャリアに関わる心理学について
- 大畑 豊 カウンセラーとして独立すること
- 笠谷 光 職業としての心理学—加害者家族支援・本人支援における公認心理師・臨

床心理士の仕事—

- 門脇加江子 学校カウンセラーの仕事について
- 近藤 祐子 産業・労働領域での活動
- 四宮 康亮 キャリア諸理論で振り返る「私」と「心理学」の関係
- 瀬古 晴加 就労支援における心理士の仕事
- 中西 誠 交通安全のために心理学を活かした仕事
- 室谷 雅美 学ぶ意欲!!

なお、心理学論集第31号において、2022年度の「職業としての心理学」の題目一覧の掲載漏れがあった。このため、以下にその情報を記す。また、著者の先生方には多大なるご迷惑をおかけしましたことを、心よりお詫び申し上げます。

2022年度心理学論集・特集 「職業としての心理学」 題目一覧

- 眞銅 景子 子育て支援における臨床心理士の仕事
- 三平 真理 若者支援における心理士の役割
- 趙 愛蓮 福祉分野での特別支援教育
- 橋本 勇真 認知症治療病棟における心理職の仕事
- 蓬萊 暁 児童発達支援事業所における心理士の仕事
- 須藤峻太郎 児童養護施設における心理職の仕事
- 今西 碧 高齢者大学校における社会教育コーディネーターの仕事
- 村田 哉 言語聴覚士の仕事について
- 藤田 裕一 心理学の視点を幅広く活かそう
- 水本 正志 外部機関に所属する産業心理職の仕事

大学院生の研究動向

2023年（令和5年）修士論文 題目一覧

M1

- 阪田 亜純
 - ・ ソーシャルサポートが親の養育に対する省察及び養育態度にもたらす影響
- 藤原 杏実
 - ・ 幼少期の母親の養育態度認知と社交不安症状に関する媒介要因の検討
- 山内 椎名
 - ・ 自己へのゆるしと自責感・罪悪感の関連
- 長岡 涼華
 - ・ 若者の自殺予防に関する心理学的研究—「自殺傾向スクリーニング尺度」の作成及び信頼性・妥当

- 性の検討
- 加藤 愛
- ・青年期におけるひとりではいられる能力が心理的自立および援助要請スタイルに及ぼす影響
- 中荒江大河
- ・サイコパシー傾向と攻撃性、ならびに他者操作性との関連 — ポジティブ心理学における「強み (Strengths)」の影響の検討 —
- 大越 悠貴
- ・児童発達支援利用児の遊びの中で芽生える関係性の発達と支援者の役割
- 牧野 航貴
- ・5 因子性格特性及びソーシャル・サポートがバーンアウトに及ぼす影響
- 福田 風紗
- ・叱られ体験による傷つきが自尊心と対人不安に与える影響と、ソーシャル・サポートの媒介の検討、及びM-GTAによる傷つきの克服プロセスの測定
- 高倉 雄志
- ・マインドフルネスのレジリエンス及び幸福感へ与える影響の検討 — 大学生を対象として —
- 赤木 文香
- ・愛着スタイルと箱庭作品の表現傾向について — 人間の使用に着目して —
- 衣川 あい
- ・ライフストーリーワークのアセスメント要素
- 野村 柊
- ・アサーションと援助要請および自己スティグマの関連
- M 2**
- 柳永 秀
- ・青年期における抑うつ予防的介入の効果と自己注目の関連の検討 — 適応的な自己注目の観点から —
- 山田 耕平
- ・空想傾向がポジティブに働くための環境要因の検討 — 「居場所」の心理的機能が与える影響の検討 —
- 伊藤みなみ
- ・異なる強度の表現語で表された痛みの感じ方に及ぼす攻撃性の影響
- 宮谷 朱音
- ・就職活動終了後における大学生の就職不安低減要因について
- 高尾凜太郎
- ・困難状況の克服と自己成長に関する心理学的考察 — レジリエンス及び生き方受容との関連から —

- 吉田 光希
- ・非行形態による関連要因の比較 — 非行傾向行為とインターネット逸脱行動 —
- 永木 梨恵
- ・青年期における援助要請の発達
- 花澤 孝一
- ・大学生の無気力感に友人からのソーシャルサポートが与える影響 — 自己効力感を介して —
- 小森 彩加
- ・学習動機づけと学習行動の関連
- 岩元 実佳
- ・児童虐待認識の文化的影響 — 日韓における国際比較 —
- 山本 莉玖
- ・現代青年の人間関係構築に関する研究 — ふれあい恐怖的心性と対人的傷つきやすさおよび親和動機の関連から —
- 鉢木 友梨
- ・マインドフルネスによるネガティブな反すうの軽減と睡眠の質の向上に関する試み
- 松岡 優太
- ・日常におけるフォーカシングの態度がSense of Coherence (SOC) に及ぼす影響 — クリアリング・ア・スペースの実践から —
- 竹内 春菜
- ・心理的居場所感がキャリアアダプタビリティに及ぼす影響
- 西村 優花
- ・ゲーム利用者の心理的居場所感、自我同一性が主観的幸福感へ及ぼす影響
- 立松 欣樹
- ・ワーキングメモリと感情制御がインターネット・ゲーム依存傾向に与える影響の検討
- D 3**
- 三木 壮一
- ・イエネコ (Felis catus) のインドア飼育環境への適応阻害要因
- 赤澤 美玖
- ・いたずら・いじわる・いじめの違いはいつから認識されるか